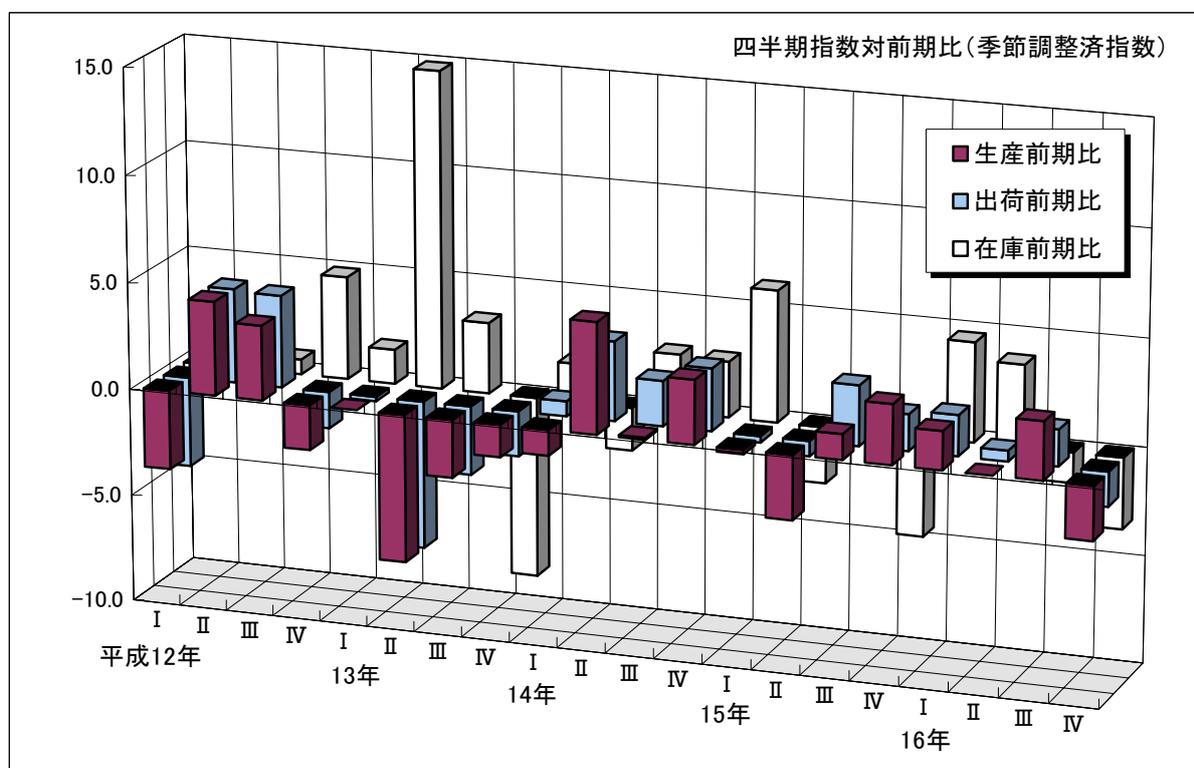


平成16年

福島県鉱工業指数年報

(平成12年基準)



うつくしま、ふくしま。

 **福島県**

企画調整部情報統計領域

は し が き

福島県では、県内鉱工業の生産、出荷及び在庫の動向を把握するための基礎資料として毎月、『福島県鉱工業指数月報』を作成し公表しておりますが、このたび、平成16年の動向を『平成16年福島県鉱工業指数年報』としてとりまとめました。

平成16年の鉱工業生産指数は99.5（前年比4.7%）と2年連続の上昇、鉱工業出荷指数は104.5（同5.4%）と3年連続の上昇、鉱工業在庫指数は126.9（同2.0%）と5年連続の上昇となりました。

本書が本県の鉱工業生産活動の解明や地域分析のための資料として、広く御活用いただければ幸いです。

なお、本指数の作成に当たりまして御協力をいただいております事業所及び関係機関の方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともいっそうの御協力をお願いいたします。

平成17年10月

福島県企画調整部長

目 次

I	平成12年基準福島県鉱工業指数作成の概要	1
II	平成16年福島県鉱工業指数の動向	
1	鉱工業の動向	
(1)	概況	5
(2)	業種別の動向	11
(3)	財別の動向	30
2	電力・ガス事業の推移	36
III	統計表	
1	原指数	
第1表	業種別生産指数	38
第2表	業種別出荷指数	40
第3表	業種別在庫指数	42
第4表	財別生産指数	44
第5表	財別出荷指数	45
第6表	財別在庫指数	46
2	季節調整済指数	
第7表	業種別生産指数	48
第8表	業種別出荷指数	50
第9表	業種別在庫指数	52
第10表	財別生産指数	54
第11表	財別出荷指数	55
第12表	財別在庫指数	56
IV	別表	
	平成12年基準指数採用品目及びウエイト	58

I 平成12年基準福島県鉱工業指数作成の概要

1 基準時・ウエイト算定年次

指数の基準年次及びウエイト算定年次は平成12年である。

2 分類

日本標準産業分類（平成14年3月第11回改定版）を基本とした業種分類と、財の用途に着目した特殊分類の二つの方法で分類した。

(1) 業種分類

業種分類については、日本標準産業分類の中分類を基本に、以下の業種について組替えを行っている。基本的な業種分類は図1のとおりである。

ア 化学工業＝化学工業（中分類17）－化学繊維製造業（小分類174）

イ パルプ・紙・紙加工品工業＝パルプ・紙・紙加工品製造業（中分類15）－繊維板製造業（細分類1592）

ウ 繊維工業＝繊維工業（中分類11）＋衣服・その他の繊維製品製造業（中分類12）＋化学繊維製造業（小分類174）

エ 食料品・たばこ工業＝食料品製造業（中分類09）＋飲料・たばこ・飼料製造業（中分類10）

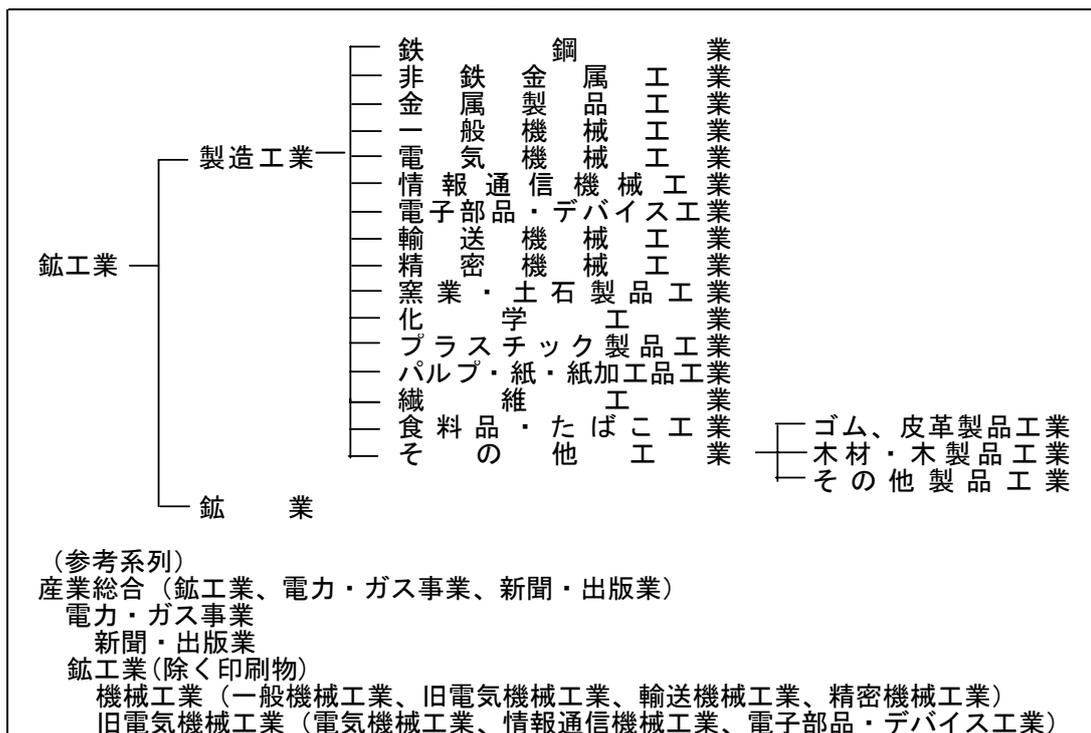
オ その他工業＝①＋②＋③

① ゴム、皮革製品工業＝ゴム製品製造業（中分類20）＋なめし革・同製品・毛皮製造業（中分類21）

② 木材・木製品工業＝木材・木製品製造業（中分類13）＋繊維板製造業（細分類1592）

③ その他製品工業＝家具・装備品製造業（中分類14）＋印刷・同関連業（中分類16）＋その他の製造業（中分類32）

図1 業種分類



(2) 特殊分類（財別分類）

特殊分類は、品目の経済的用途によって財別に分類したものである。各財格付けの定義は表1のとおりである。

表1 特殊分類の定義

特殊分類（財別分類）	定義
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない製品。ただし、建設財を含み、企業消費財を除く
投資財	資本財と建設財の合計
資本財	家計以外で購入される製品で、原則として想定耐用年数が1年以上で比較的購入単価が高いもの
建設財	建設工事用の資材及び建築物に対する内装品並びに土木工事用の資材
消費財	家計で購入される製品（耐久消費財と非耐久消費財の合計）
耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年以上で、比較的購入単価が高いもの
非耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年未満又は比較的購入単価が低いもの
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料等として投入される製品。ただし、企業消費財を含み、建設財を除く
鉱工業用生産財	鉱工業の生産工程に原材料、燃料、部品、容器、消耗品及び工具等として再投入される製品
その他用生産財	非鉱工業用の原材料、燃料、容器、消耗品及び企業消費財等

3 採用品目

経済産業省生産動態統計調査（福島県分）及び福島県鉱工業指数調査から業種・特殊分類ごとに代表性を考慮して選定した。

採用品目数は、生産指数及び出荷指数が227品目、在庫指数は138品目である。

（表2、3参照）

また、採用品目の名称及び単位は別表（P55～59）のとおりである。

表2 業種別品目数

業種分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		227	227	138
製造工業		223	223	135
鉄鋼業		9	9	5
非鉄金属工業		10	10	6
金属製品工業		9	9	4
一般機械工業		22	22	9
電気機械工業		17	17	9
情報通信機械工業		13	13	5
電子部品・デバイス工業		13	13	6
輸送機械工業		10	10	3
精密機械工業		8	8	4
窯業・土石製品工業		18	18	17
化学工業		27	27	22
プラスチック製品工業		7	7	6
パルプ・紙・紙加工品工業		8	8	6
繊維工業		10	10	10
食料品・たばこ工業		25	25	11
その他工業		17	17	12
ゴム・皮革製品工業		6	6	4
木材・木製品工業		3	3	3
その他製品工業		8	8	5
鉱業 (参考)		4	4	3
産業総合		230	230	138
電力・ガス事業		2	2	0
新聞・出版業		1	1	0
鉱工業（除く印刷物）		226	226	0
機械工業		83	83	36
旧電気機械工業		43	43	20

表3 財別品目数

特殊分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		242	242	149
最終需要財		117	117	66
投資財		59	59	33
資本財		32	32	11
建設財		27	27	22
消費財		58	58	33
耐久消費財		16	16	9
非耐久消費財		42	42	24
生産財		125	125	83
鉱工業用生産財		116	116	78
その他用生産財		9	9	5

(注) 複数の財にウエイトを分割している品目があるため、業種別の計と一致しない。

4 ウェイト

ウェイトは、個々の品目の鉱工業全体に占める重要度のことで、多数の品目の生産数量、出荷数量、在庫数量の変化を総合的に比較するために必要な要素である。

生産指数は付加価値額ウェイト、出荷指数は出荷額ウェイト、在庫指数は年平均在庫額ウェイトであり、指数全体を10000.0として採用品目ごとに万分比で示している。

算定の基礎資料は、製造工業については『平成12年工業統計調査(福島県)』、鉱業については『本邦鉱業のすう勢調査(経済産業省)』及び『経済産業省生産動態統計調査(福島県分)』を用いた。

業種別、財別のウェイトは表4、5のとおりである。

また、採用品目のウェイト及び財別格付けは別表(P55～59)のとおりである。

表4 業種別生産、出荷、在庫ウェイト

業種分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		10000.0	10000.0	10000.0
製造工業		9974.5	9985.9	9997.5
鉄鋼業		100.1	103.2	80.0
非鉄金属工業		228.9	248.6	176.6
金属製品工業		458.9	421.6	340.5
一般機械工業		615.1	512.3	411.7
電気機械工業		530.9	703.2	620.0
情報通信機械工業		1314.0	1680.6	1748.6
電子部品・デバイス工業		1039.4	1200.6	608.4
輸送機械工業		538.2	581.3	235.5
精密機械工業		300.1	262.2	179.3
窯業・土石製品工業		472.5	400.1	756.5
化学工業		1250.5	873.3	1729.4
プラスチック製品工業		419.7	373.8	443.2
パルプ・紙・紙加工品工業		205.3	247.9	265.8
繊維工業		265.9	180.8	151.8
食料品・たばこ工業		1490.0	1521.6	1680.8
その他工業		745.0	674.8	569.4
ゴム、皮革製品工業		270.0	245.9	172.3
木材・木製品工業		128.7	125.9	165.8
その他製品工業		346.3	303.0	231.3
鉱業 (参考)		25.5	14.1	2.5
産業総合		14415.9	13826.1	10000.0
電力・ガス事業		4356.5	3803.2	-
新聞・出版業		59.4	22.9	-
鉱工業(除く印刷物)		9852.0	9883.0	10000.0
機械工業		4337.7	4940.2	3803.5
旧電気機械工業		2884.3	3584.4	2977.0

表5 財別生産、出荷、在庫ウェイト

特殊分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		10000.0	10000.0	10000.0
	最終需要財	5098.4	5269.5	4859.8
	投資財	1724.7	1905.7	1595.4
	資本財	974.3	1230.0	593.5
	建設財	750.4	675.7	1001.9
	消費財	3373.7	3363.8	3264.4
	耐久消費財	910.0	990.4	1299.2
	非耐久消費財	2463.7	2373.4	1965.2
	生産財	4901.6	4730.5	5140.2
	鉱工業用生産財	4750.5	4608.1	4736.1
	その他用生産財	151.1	122.4	404.1

5 指数の算式

総合指数の算式は、個別系列を基準時の固定ウェイトで加重平均するラスパイレス算式であり、次の式で表される。

$$\text{総合指数} = \frac{\left(\frac{\text{品目別比較時数量}}{\text{品目別基準時数量}} \times \text{品目別基準時(平成12年)ウェイト} \right) \text{の総和}}{\text{品目別基準時(平成12年)ウェイトの総和}} \times 100$$

6 季節調整

指数の時系列は、長期的傾向、景気循環などの変動要因を含んでいるが、季節的要因（四季の変動から成る自然要因、盆・正月などの社会的習慣、決算期などの商習慣等の社会的要因）の影響を受けて、毎年一定の変動を繰り返している。季節調整法とは、季節的な変動要因を原指数から取り除く方法である。

(1) 季節調整の方法

季節調整法は、米国センサス局の X-12-ARIMA を採用し、平成10年1月から平成16年12月までの84時点の時系列データにより季節指数を算出している。

(2) 季節調整済指数の算出

季節調整済指数の算出は、次の式による。

$$\text{季節調整済指数} = \frac{\text{原指数}}{\text{季節指数}} \times 100$$

<注> 季節調整済指数は主に短期的動向（前月との比較や、四半期別の前期との比較）をみるのに利用し、原指数は前年同月との比較に利用する。

II 平成16年福島県鉱工業指数の動向

1 鉱工業の動向

(1) 概況

ア 年別推移

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、99.5で前年比4.7%、出荷指数は104.5で同5.4%、在庫指数は126.9で同2.0%とそれぞれ上昇した。

生産指数は2年連続で上昇し、出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は5年連続で上昇した（表1）。

また、平成16年の季節調整済指数の月別推移をみると、生産指数は、2月に大きく低下した後、緩やかに上昇し、年央から横ばい傾向で推移した。

出荷指数は、2月に大きく低下した後、2か月連続で上昇し、5月以降は低下と上昇を繰り返して横ばい傾向で推移した。

在庫指数は、年前半は上昇傾向、年後半は低下傾向で推移した（表2）。

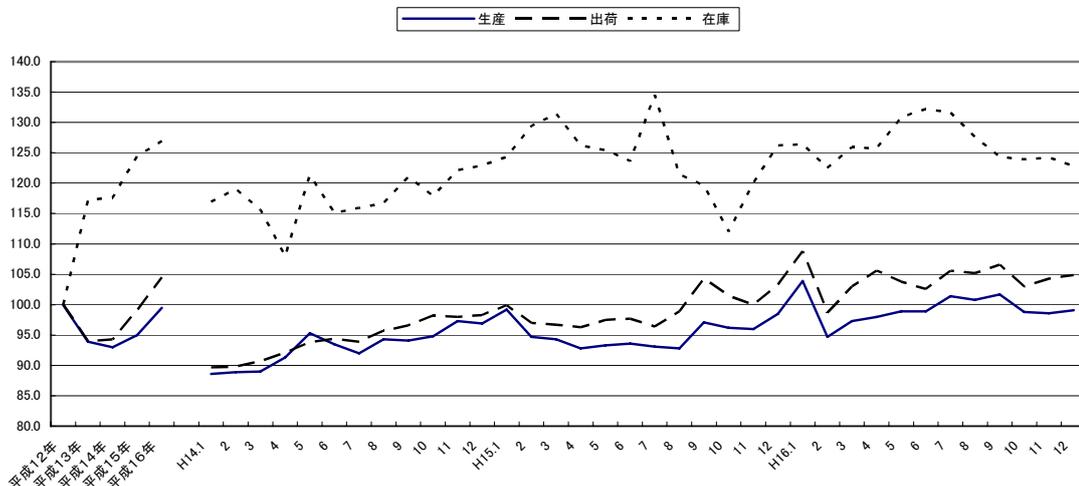
表1 鉱工業指数の年別推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	93.9	93.0	95.0	99.5
前年比(%)	0.9	▲6.1	▲1.0	2.2	4.7
出荷	100.0	94.0	94.3	99.1	104.5
前年比(%)	0.9	▲6.0	0.3	5.1	5.4
在庫	100.0	117.2	117.6	124.4	126.9
前年比(%)	1.5	17.2	0.3	5.8	2.0

表2 鉱工業指数の月別推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成14年	生産	88.6	88.9	89.0	91.3	95.3	93.5	92.0	94.3	94.1	94.8	97.3	96.9
	出荷	89.7	89.8	90.7	92.1	93.8	94.4	93.9	95.7	96.6	98.2	98.0	98.3
	在庫	116.9	119.0	115.6	108.0	121.3	115.1	115.9	116.7	121.0	117.9	122.1	122.9
平成15年	生産	99.2	94.7	94.3	92.8	93.3	93.6	93.1	92.8	97.1	96.2	96.0	98.5
	出荷	99.9	97.0	96.7	96.3	97.5	97.7	96.4	98.9	104.3	101.5	100.0	103.3
	在庫	124.3	129.4	131.4	126.2	125.4	123.6	134.5	121.4	119.6	112.0	120.0	126.2
平成16年	生産	103.9	94.7	97.3	98.0	98.9	98.9	101.4	100.8	101.7	98.8	98.6	99.1
	出荷	108.8	98.7	103.0	105.6	103.8	102.6	105.6	105.2	106.6	103.0	104.3	104.9
	在庫	126.4	122.5	125.9	125.7	130.8	132.2	131.6	127.6	124.3	123.9	124.2	122.8

図1 鉱工業指数年別(原指数)・月別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



イ 四半期別推移

平成16年の生産指数(季節調整済指数)四半期別前期比(以下順に「Ⅰ期(1～3月期)」、「Ⅱ期(4～6月期)」、「Ⅲ期(7～9月期)」、「Ⅳ期(10～12月期)」という。)は、Ⅰ期に平成15年Ⅲ期から3期連続の上昇となり、Ⅱ期では横ばい、Ⅲ期に上昇、Ⅳ期に低下したが、全体ではほぼ横ばい傾向で推移した。

出荷は、Ⅲ期まで平成15年Ⅲ期から5期連続の上昇となり、4期に低下したが上昇・低下幅は小さく、全体ではほぼ横ばい傾向で推移した。

在庫は、Ⅰ期、Ⅱ期は上昇し、Ⅲ期、Ⅳ期は低下した(表3)。

また、生産指数(原指数)四半期別前年同期比は、平成14年Ⅲ期から10期連続で前年同期比を上回った(表4)。

表3 鉱工業指数四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
生産 前期比(%)	88.8 ▲1.2	93.4 5.2	93.5 0.1	96.3 3.0	96.1 ▲0.2	93.2 ▲3.0	94.3 1.2	96.9 2.8	98.6 1.8	98.6 0.0	101.3 2.7	98.8 ▲2.5
出荷 前期比(%)	90.1 0.7	93.4 3.7	95.4 2.1	98.2 2.9	97.9 ▲0.3	97.2 ▲0.7	99.9 2.8	101.6 1.7	103.5 1.9	104.0 0.5	105.8 1.7	104.1 ▲1.6
在庫 前期比(%)	117.2 1.8	114.8 ▲2.0	117.9 2.7	121.0 2.6	128.4 6.1	125.1 ▲2.6	125.2 0.1	119.4 ▲4.6	124.9 4.6	129.6 3.8	127.8 ▲1.4	123.6 ▲3.3

図2 鉱工業指数年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

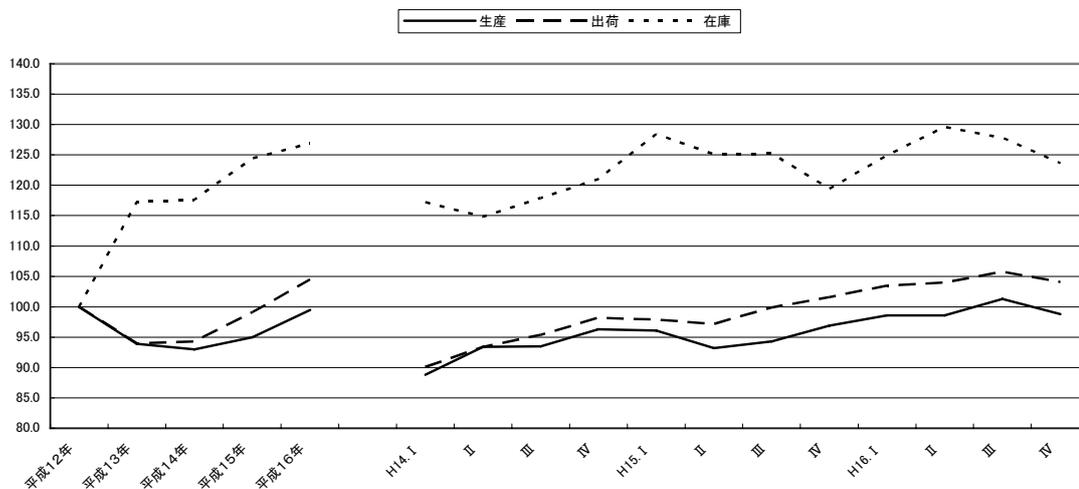
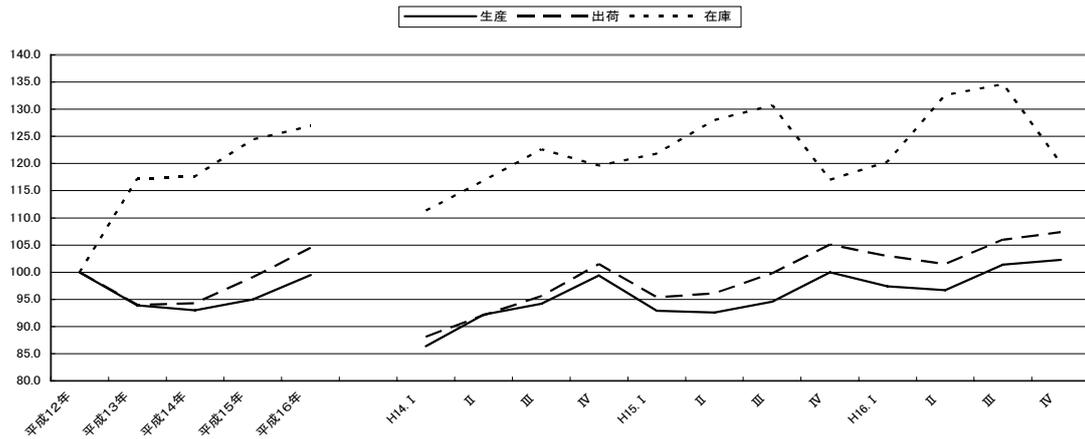


表4 鉱工業指数四半期別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
生産 前年同期比(%)	86.4 ▲12.1	92.2 ▲0.4	94.2 2.6	99.4 7.1	92.9 7.5	92.6 0.4	94.6 0.4	100.0 0.6	97.4 4.8	96.7 4.4	101.4 7.2	102.3 2.3
出荷 前年同期比(%)	88.1 ▲11.4	92.1 ▲1.0	95.6 4.7	101.5 9.8	95.4 8.3	96.1 4.3	99.8 4.4	105.1 3.5	103.0 8.0	101.5 5.6	106.0 6.2	107.4 2.2
在庫 前年同期比(%)	111.3 10.5	116.8 ▲5.3	122.6 ▲6.1	119.6 4.7	121.8 9.4	128.0 9.6	130.7 6.6	117.0 ▲2.2	120.3 ▲1.2	132.6 3.6	134.6 3.0	120.0 2.6

図3 鉱工業指数年別(原指数)・四半期別(原指数)指数の推移(平成12年=100.0)

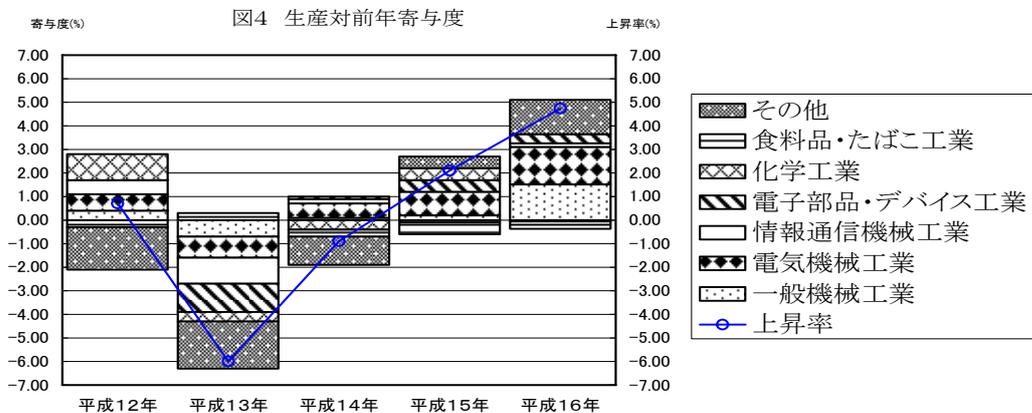


ウ 業種別概況

生産指数(原指数年平均)では、精密機械工業が前年比▲6.2%、木材・木製品工業が同▲6.2%、繊維工業が同▲5.2%、食料品・たばこ工業が同▲2.1%など7業種で低下したものの、電気機械工業が前年比25.7%、一般機械工業が同24.9%、金属製品工業が同12.1%、輸送機械工業が同10.7%など12業種で上昇したため、全体として4.7%上昇した(表5)。

表5 業種別年別生産寄与度及び原指数の対前年上昇率

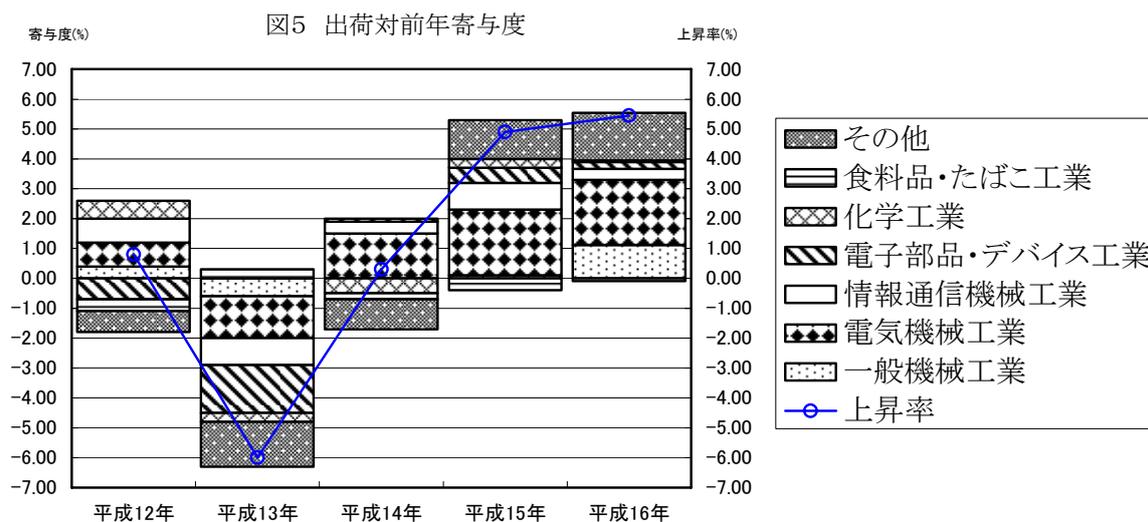
業種	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	16年上昇率
鉱工業	0.9	▲6.1	▲1.0	2.2	4.7	4.7
製造工業	0.9	▲6.1	▲1.0	2.2	4.7	4.7
鉄鋼業	0.1	0.0	0.0	0.3	0.1	6.1
非鉄金属工業	0.1	▲0.1	0.0	0.1	0.1	5.7
金属製品工業	▲0.1	▲0.6	▲1.1	0.3	0.4	12.1
一般機械工業	0.4	▲0.7	0.1	0.2	1.5	24.9
電気機械工業	0.7	▲0.9	0.6	1.0	1.6	25.7
情報通信機械工業	0.6	▲1.1	0.2	▲0.1	0.2	1.2
電子部品・デバイス工業	0.0	▲1.2	0.1	0.5	0.4	3.7
輸送機械工業	0.5	0.0	0.0	0.1	0.6	10.7
精密機械工業	▲0.7	0.1	▲0.4	▲0.2	▲0.2	▲6.2
窯業・土石製品工業	0.1	▲0.3	▲0.2	0.1	0.1	1.1
化学工業	1.1	▲0.4	▲0.4	0.5	▲0.1	▲0.4
プラスチック製品工業	▲0.1	▲0.3	0.4	▲0.1	0.4	9.9
パルプ・紙・紙加工品工業	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	3.7
繊維工業	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲5.2
食料品・たばこ工業	▲0.3	0.3	▲0.3	▲0.5	▲0.3	▲2.1
その他工業	▲1.3	▲0.5	0.1	0.0	▲0.0	▲0.4
ゴム、皮革製品工業	▲1.5	0.0	0.0	0.1	0.0	1.2
木材・木製品工業	0.1	▲0.3	▲0.1	0.0	▲0.1	▲6.2
その他製品工業	0.1	▲0.2	0.1	▲0.1	▲0.0	▲0.4
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲0.1	▲18.1



出荷指数では、精密機械工業が前年比▲14.8%、木材・木製品工業が同▲7.4%、繊維工業が同▲2.1%、その他製品工業が同▲1.3%など7業種で低下したものの、鉄鋼業が前年比41.5%、一般機械工業が同24.1%、電気機械工業が同23.6%、金属製品工業が同13.4%など12業種で上昇したため、全体として5.4%上昇した（表6）。

表6 業種別年別出荷寄与度及び原指数の対前年上昇率

業種	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	16年上昇率
鉱工業	0.9	▲6.0	0.3	5.1	5.4	5.4
製造工業	1.6	▲6.1	0.3	5.1	5.4	5.4
鉄鋼業	0.1	▲0.1	0.0	0.3	0.5	41.5
非鉄金属工業	0.1	▲0.1	0.0	0.0	0.2	6.6
金属製品工業	▲0.1	▲0.7	▲1.1	0.3	0.4	13.4
一般機械工業	0.4	▲0.6	0.0	0.1	1.1	24.1
電気機械工業	0.8	▲1.4	1.5	2.2	2.2	23.6
情報通信機械工業	0.8	▲0.9	0.4	0.9	0.4	2.2
電子部品・デバイス工業	▲0.7	▲1.6	0.1	0.5	0.2	2.1
輸送機械工業	0.6	0.0	▲0.1	0.1	0.6	10.5
精密機械工業	▲0.6	0.0	▲0.2	0.1	▲0.4	▲14.8
窯業・土石製品工業	0.1	▲0.4	0.1	0.2	▲0.0	▲0.5
化学工業	0.6	▲0.3	▲0.5	0.3	0.0	0.5
プラスチック製品工業	0.1	▲0.2	0.3	0.4	0.3	7.9
パルプ・紙・紙加工工業	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	4.1
繊維工業	▲0.2	▲0.2	▲0.1	▲0.1	▲0.0	▲2.1
食料品・たばこ工業	▲0.4	0.3	▲0.2	▲0.4	▲0.1	▲0.6
その他工業	▲0.8	0.1	0.0	0.0	▲0.1	▲1.1
ゴム、皮革製品工業	▲1.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.9
木材・木製品工業	0.1	▲0.3	▲0.1	0.0	▲0.1	▲7.4
その他製品工業	0.1	▲0.2	0.2	▲0.2	▲0.0	▲1.3
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲0.0	▲17.6

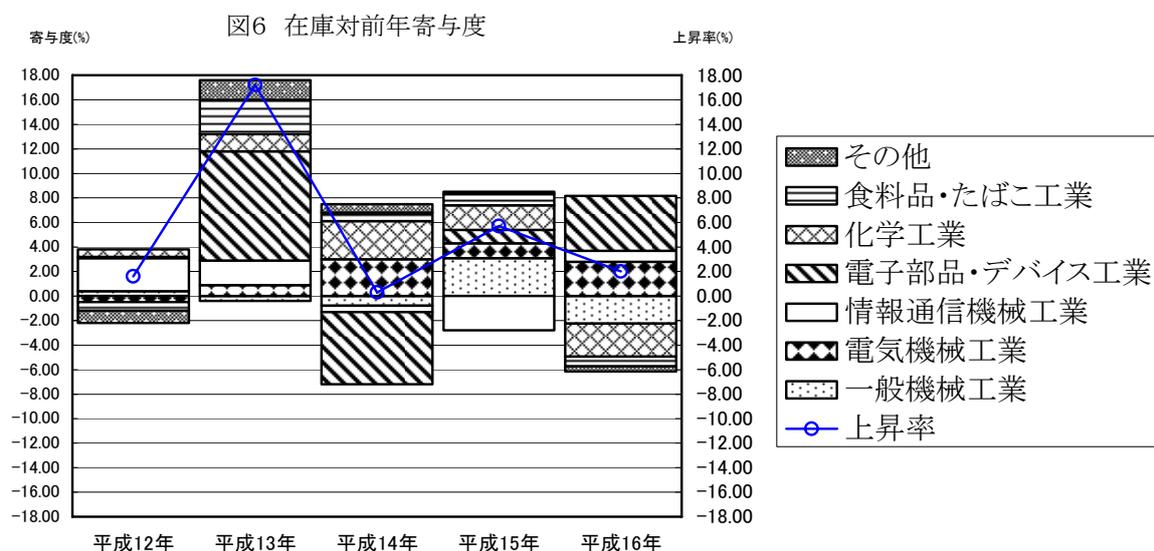


在庫指数では、一般機械工業が前年比▲42.8%、窯業・土石製品工業が同▲24.2%、化学

工業が同▲13.8%、精密機械工業が同▲13.7%など8業種で低下したものの、電子部品・デバイス工業が前年比56.3%、電気機械工業が同29.1%、鉄鋼業が同19.5%、プラスチック製品工業が同19.3%など11業種で上昇したため、全体として2.0%上昇した（表7）。

表7 業種別年別在庫寄与度及び原指数の対前年上昇率

業種	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	16年上昇率
鉱工業	1.5	17.2	0.3	5.8	2.0	2.0
製造工業	2.3	17.8	0.3	5.8	2.0	2.0
鉄鋼業	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	19.5
非鉄金属工業	0.3	0.5	0.2	0.0	0.2	9.8
金属製品工業	0.4	▲0.2	▲0.9	▲0.5	0.0	2.7
一般機械工業	0.4	▲0.4	▲0.8	3.1	▲2.2	▲42.8
電気機械工業	▲0.5	0.9	3.0	1.2	2.8	29.1
情報通信機械工業	2.7	2.0	▲0.5	▲2.8	0.9	7.1
電子部品・デバイス工業	0.1	8.9	▲5.9	1.1	4.5	56.3
輸送機械工業	0.1	1.0	▲1.1	▲0.4	0.2	15.5
精密機械工業	0.6	0.6	0.6	▲0.7	▲0.2	▲13.7
窯業・土石製品工業	▲0.8	0.7	0.1	0.7	▲1.8	▲24.2
化学工業	0.6	1.4	3.1	2.0	▲2.7	▲13.8
プラスチック製品工業	▲0.9	▲0.5	1.0	1.2	1.0	19.3
パルプ・紙・紙加工品工業	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0	0.1
繊維工業	▲0.1	▲0.1	0.1	0.1	▲0.0	▲1.1
食料品・たばこ工業	▲0.7	2.8	0.7	0.9	▲0.8	▲4.6
その他工業	▲0.7	▲0.6	0.7	▲0.5	0.1	1.3
ゴム、皮革製品工業	0.0	0.0	0.1	▲0.3	▲0.0	▲0.4
木材・木製品工業	▲0.5	▲0.5	0.6	0.0	▲0.0	▲0.8
その他製品工業	▲0.1	0.0	0.0	▲0.2	0.1	4.1
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.1



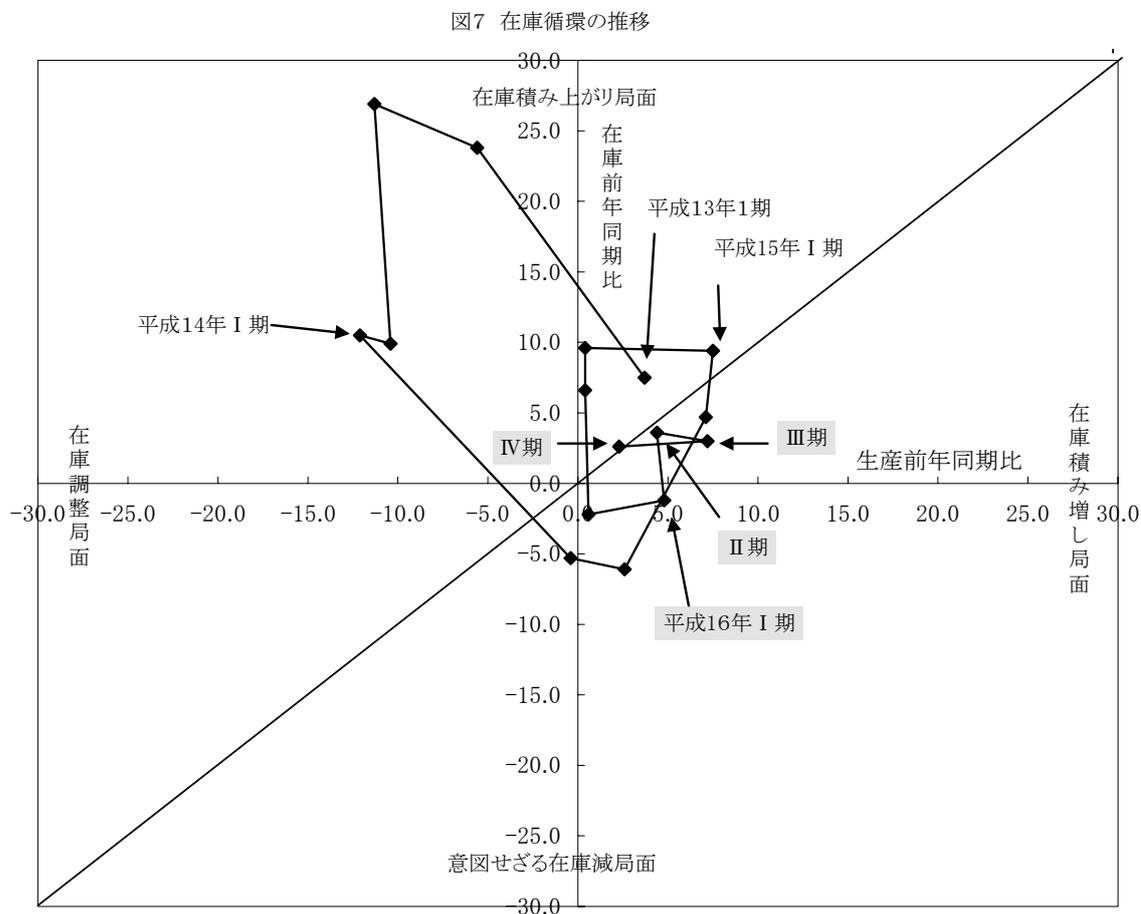
エ 在庫循環の推移

生産と在庫の関係をみると、生産は前年同期比で平成16年Ⅲ期の上昇幅を最大として、

平成14年Ⅲ期から10期連続で前年同期を上回った。

一方、在庫は前年同期比で平成16年Ⅰ期に二期連続で前年同期を下回ったものの、Ⅱ期～Ⅳ期は三期連続で前年同期を上回った。

このため、平成16年は生産は上昇傾向にあって、在庫はⅡ期～Ⅳ期に前年同期比上昇率が同程度にあったことから「在庫積み増し局面」での足踏み状況が続いた(図7)。



意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	需要が回復し、出荷が増加し始めるが、生産は停滞しており、在庫は減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大期)	生産、出荷とも好調に推移し、減少していた在庫も積み増される。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	生産に比べ、出荷が減少し始め、在庫が積み増される。
在庫調整局面 (景気後退期)	生産を調整することによって、在庫が減少する。

(2) 業種別の動向

ア 鉄鋼業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、134.4で前年比6.1%、出荷指数は170.2で同41.5%、在庫指数は138.6で同19.5%それぞれ上昇した。

生産指数は3年連続で上昇し、出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は5年連続で上昇した(表8)。

品目別で見ると、生産は、普通鋼鋼管、磨棒鋼・線類、特殊鋼鋼管など8品目が上昇し、精密鋳造品が低下した。

出荷は、銑鉄鋳物、特殊鋼鋼管、普通鋼鋼管など8品目が上昇し、精密鋳造品が低下した。

在庫は、磨棒鋼・線類、鋳鋼品、銑鉄鋳物など4品目が上昇し、特殊鋼鋼管が低下した。

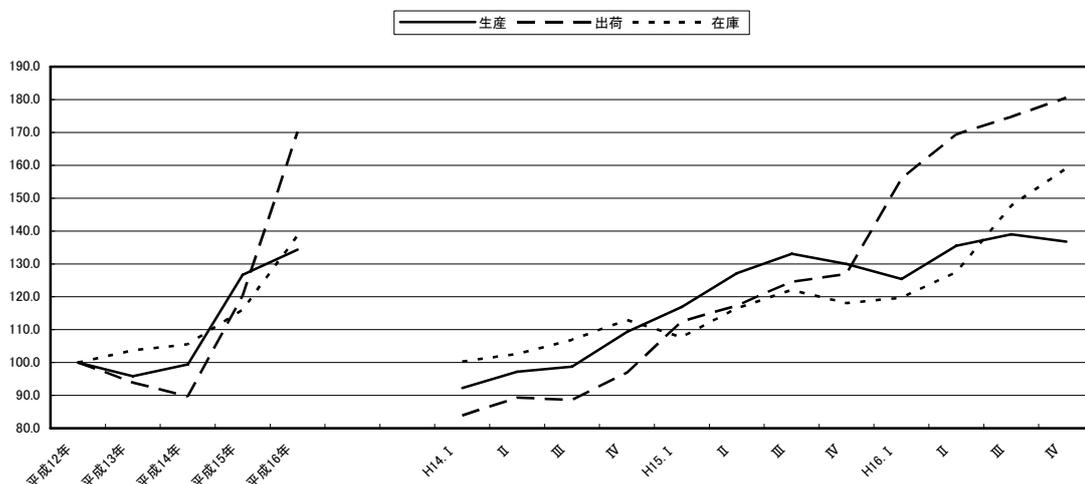
表8 鉄鋼業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	95.8	99.4	126.7	134.4
前年比(%)		▲4.2	3.8	27.5	6.1
出荷	100.0	93.9	89.7	120.3	170.2
前年比(%)		▲6.1	▲4.5	34.1	41.5
在庫	100.0	103.7	105.5	116.0	138.6
前年比(%)		3.7	1.7	10.0	19.5

表9 鉄鋼業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	92.2	97.2	98.7	109.3	116.9	127.2	133.1	130.0	125.4	135.5	139.0	136.8
前期比(%)	0.0	5.4	1.5	10.7	7.0	8.8	4.6	▲2.3	▲3.5	8.1	2.6	▲1.6
出荷	83.9	89.3	88.6	96.9	112.5	117.3	124.6	127.0	156.0	169.4	174.8	180.6
前期比(%)	▲3.0	6.4	▲0.8	9.4	16.1	4.3	6.2	1.9	22.8	8.6	3.2	3.3
在庫	100.3	102.6	106.9	112.9	107.7	116.5	122.0	118.1	119.7	127.5	147.7	159.0
前期比(%)	▲0.2	2.3	4.2	5.6	▲4.6	8.2	4.7	▲3.2	1.4	6.5	15.8	7.7

図8 鉄鋼業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



イ 非鉄金属工業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、102.3で前年比5.7%、出荷指数は103.0で同6.6%、在庫指数は156.4で同9.8%それぞれ上昇した。

生産指数及び出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は5年連続で上昇した(表10)。品目別で見ると、生産は、アルミニウム鍛工品、銅線、伸銅製品など7品目が上昇し、ダイカスト、電気銅、アルミニウム鋳物が低下した。

出荷は、アルミニウム鍛工品、銅線、アルミニウム系二次地金、など7品目が上昇し、ダイカスト、電気銅、アルミニウム鋳物が低下した。

在庫は、伸銅製品、銅線、電気銅が上昇し、アルミニウム圧延製品、アルミニウム系二次地金、銅ケーキ・ビレットが低下した。

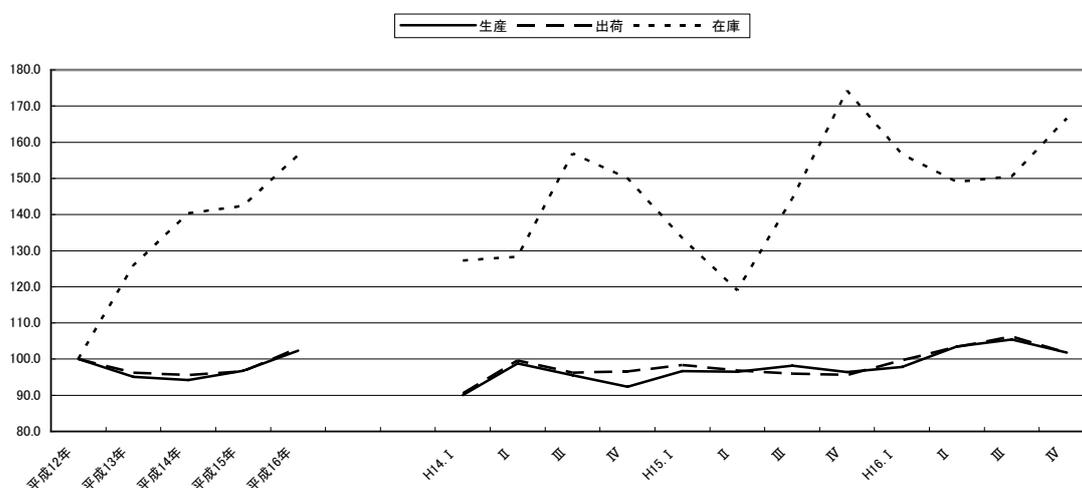
表10 非鉄金属工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	95.1	94.2	96.8	102.3
前年比(%)	6.3	▲4.9	▲0.9	2.8	5.7
出荷	100.0	96.2	95.6	96.6	103.0
前年比(%)	4.5	▲3.8	▲0.6	1.0	6.6
在庫	100.0	126.0	140.4	142.4	156.4
前年比(%)	18.6	26.0	11.4	1.4	9.8

表11 非鉄金属工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	90.1	98.8	95.5	92.4	96.7	96.5	98.2	96.4	97.8	103.5	105.4	101.8
前期比(%)	▲3.4	9.7	▲3.3	▲3.2	4.7	▲0.2	1.8	▲1.8	1.5	5.8	1.8	▲3.4
出荷	90.5	99.6	96.2	96.6	98.4	96.9	96.0	95.6	99.7	103.4	106.2	101.8
前期比(%)	▲3.2	10.1	▲3.4	0.4	1.9	▲1.5	▲0.9	▲0.4	4.3	3.7	2.7	▲4.1
在庫	127.3	128.4	156.9	150.0	133.5	119.0	144.4	174.3	156.6	149.0	150.6	166.6
前期比(%)	0.8	0.9	22.2	▲4.4	▲11.0	▲10.9	21.3	20.7	▲10.2	▲4.9	1.1	10.6

図9 非鉄金属工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ウ 金属製品工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、83.5で前年比12.1%、出荷指数は75.2で同13.4%、在庫指数は48.7で同2.7%それぞれ上昇した。

生産指数及び出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は4年ぶりに上昇した（表12）。品目別で見ると、生産は、鉄塔、超硬工具、粉末冶金製機械材料など7品目が上昇し、アルミニウム製建具、スチール・ステンレス製建具が低下した。

出荷は、超硬工具、鉄塔、粉末冶金製機械材料など8品目が上昇し、スチール・ステンレス製建具が低下した。

在庫は、金網、産業用軽金属板が上昇し、超硬工具が低下した。

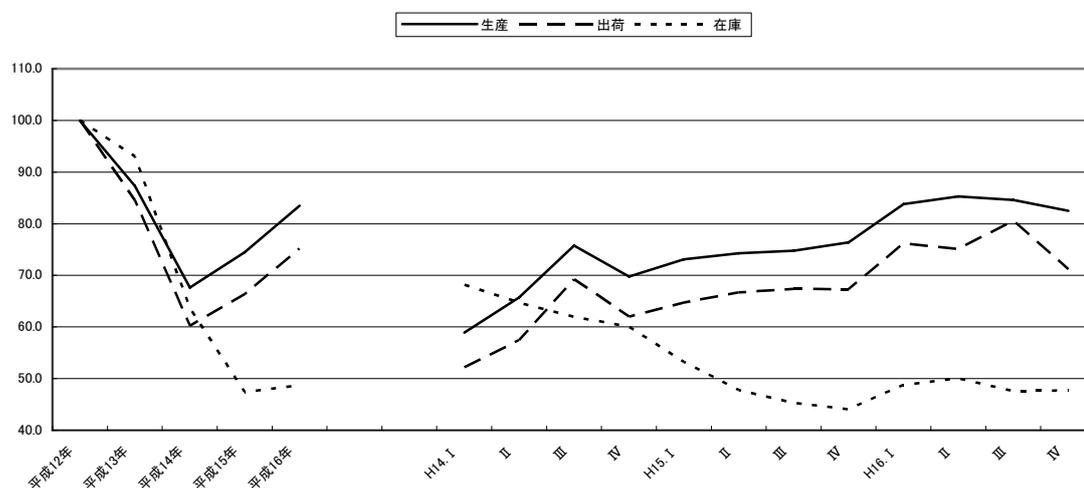
表12 金属製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	87.3	67.6	74.5	83.5
前年比(%)		▲ 2.1	▲ 12.7	▲ 22.6	10.2
出荷	100.0	84.5	60.2	66.3	75.2
前年比(%)		▲ 2.2	▲ 15.5	▲ 28.8	10.1
在庫	100.0	93.0	63.6	47.4	48.7
前年比(%)		11.6	▲ 7.0	▲ 31.6	▲ 25.5

表13 金属製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	58.9	65.7	75.8	69.8	73.1	74.3	74.8	76.4	83.8	85.3	84.6	82.5
前期比(%)	▲ 20.3	11.5	15.4	▲ 7.9	4.7	1.6	0.7	2.1	9.7	1.8	▲ 0.8	▲ 2.5
出荷	52.2	57.4	69.2	62.0	64.7	66.7	67.4	67.3	76.2	75.1	80.6	71.2
前期比(%)	▲ 25.0	10.0	20.6	▲ 10.4	4.4	3.1	1.0	▲ 0.1	13.2	▲ 1.4	7.3	▲ 11.7
在庫	68.2	64.7	62.0	60.0	53.2	47.8	45.3	44.1	48.8	50.1	47.6	47.7
前期比(%)	▲ 12.5	▲ 5.1	▲ 4.2	▲ 3.2	▲ 11.3	▲ 10.2	▲ 5.2	▲ 2.6	10.7	2.7	▲ 5.0	0.2

図10 金属製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



エ 一般機械工業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、116.4で前年比24.9%、出荷指数は111.2で同24.1%それぞれ上昇し、在庫指数は90.5で同▲42.8%低下した。

生産指数は3年連続で上昇し、出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は2年ぶりに低下した(表14)。

品目別でみると、生産は、バルブ及びコック、金属工作機械、化学機械など13品目が上昇し、せん断機、パルプ・製紙機械、軸受など9品目が低下した。

出荷は、バルブ及びコック、金属工作機械、化学機械など13品目が上昇し、せん断機、パルプ・製紙機械、軸受など9品目が低下した。

在庫は、圧縮機、木材加工機械、金属工作機械が上昇し、油圧機器、C(W)BN 工具、ダイヤモンド工具など6品目が低下した。

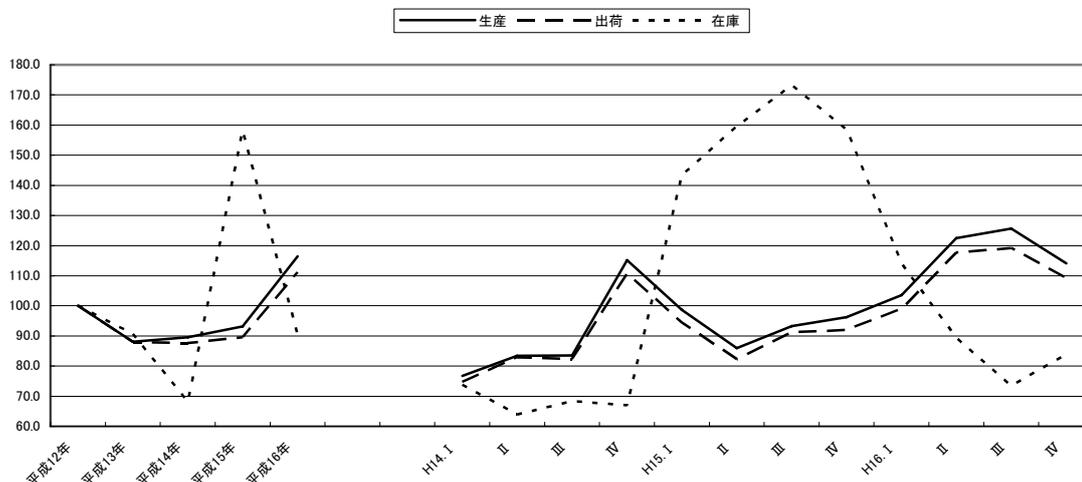
表14 一般機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	88.1	89.6	93.2	116.4
前年比(%)	7.6	▲11.9	1.7	4.0	24.9
出荷	100.0	88.0	87.6	89.6	111.2
前年比(%)	7.4	▲12.0	▲0.5	2.3	24.1
在庫	100.0	90.6	68.2	158.2	90.5
前年比(%)	9.6	▲9.4	▲24.7	132.0	▲42.8

表15 一般機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	76.7	83.4	83.5	115.2	98.7	86.0	93.3	96.2	103.5	122.5	125.7	114.1
前期比(%)	3.1	8.7	0.1	38.0	▲14.3	▲12.9	8.5	3.1	7.6	18.4	2.6	▲9.2
出荷	74.7	82.9	82.4	110.7	94.4	82.2	91.2	92.0	99.0	117.7	119.2	109.2
前期比(%)	1.4	11.0	▲0.6	34.3	▲14.7	▲12.9	10.9	0.9	7.6	18.9	1.3	▲8.4
在庫	73.8	63.9	68.4	67.0	143.4	159.6	173.2	158.5	114.0	89.3	73.5	83.9
前期比(%)	▲9.0	▲13.4	7.0	▲2.0	114.0	11.3	8.5	▲8.5	▲28.1	▲21.7	▲17.7	14.1

図11 一般機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



オ 電気機械工業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、138.5で前年比25.7%、出荷指数は160.0で同23.6%、在庫指数は248.3で同29.1%それぞれ上昇した。

生産指数及び出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は4年連続で上昇した(表16)。品目別で見ると、生産は、開閉機器、シリコンウエハ、変圧器など6品目が上昇し、白熱電球、直流機、放電ランプなど11品目が低下した。

出荷は、開閉機器、シリコンウエハ、変圧器など7品目が上昇し、直流機、白熱電球、放電ランプなど10品目が低下した。

在庫は、シリコンウエハ、リチウムイオン蓄電池、鉛電池が上昇し、放電ランプ、乾電池、換気扇が低下した。

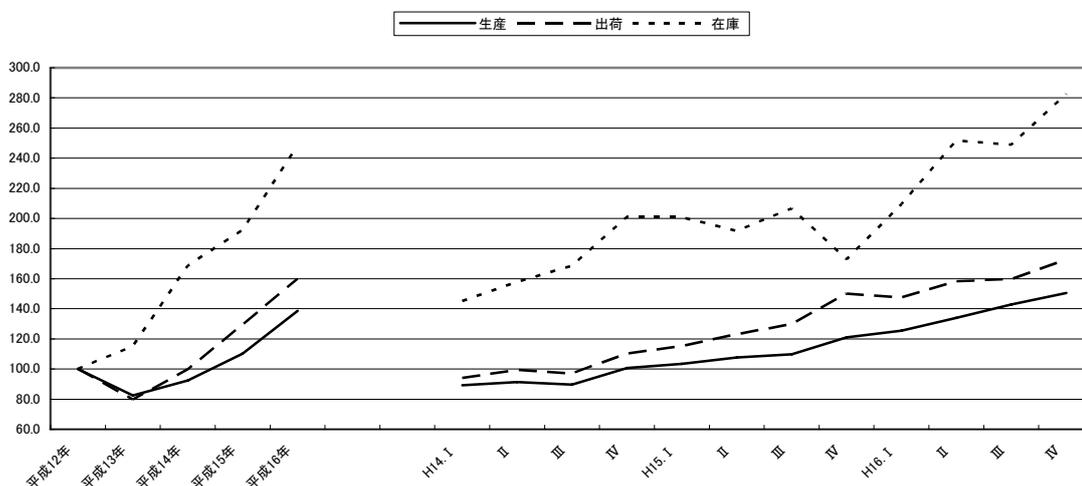
表16 電気機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	82.5	92.5	110.2	138.5
前年比(%)	14.5	▲17.5	12.1	19.1	25.7
出荷	100.0	79.8	99.9	129.4	160.0
前年比(%)	13.5	▲20.2	25.2	29.5	23.6
在庫	100.0	115.1	168.6	192.3	248.3
前年比(%)	▲7.1	15.1	46.5	14.1	29.1

表17 電気機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	89.2	91.4	89.7	100.7	103.5	107.7	109.8	121.0	125.5	134.0	142.8	150.4
前期比(%)	7.1	2.5	▲1.9	12.3	2.8	4.1	1.9	10.2	3.7	6.8	6.6	5.3
出荷	94.1	99.4	97.0	110.1	115.2	123.2	129.8	150.1	147.5	158.3	159.8	173.0
前期比(%)	13.2	5.6	▲2.4	13.5	4.6	6.9	5.4	15.6	▲1.7	7.3	0.9	8.3
在庫	145.2	157.9	168.6	201.0	200.9	191.7	206.6	172.8	209.5	251.8	249.0	282.6
前期比(%)	8.4	8.7	6.8	19.2	▲0.0	▲4.6	7.8	▲16.4	21.2	20.2	▲1.1	13.5

図12 電気機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



カ 情報通信機械工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、92.7で前年比1.2%、出荷指数は104.1で同2.2%、在庫指数は96.0で同7.1%それぞれ上昇した。

生産指数は2年ぶりに上昇し、出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は3年ぶりに上昇した（表18）。

品目別でみると、生産は、カーナビゲーションシステム、パーソナルコンピュータ、移動通信装置（携帯電話・PHS）など6品目が上昇し、ミッドレンジコンピュータ、液晶テレビジョン受信機、アンプ・スピーカなど7品目が低下した。

出荷は、移動通信装置（携帯電話・PHS）、カーナビゲーションシステム、パーソナルコンピュータなど6品目が上昇し、ミッドレンジコンピュータ、液晶テレビジョン受信機、アンプ・スピーカなど7品目が低下した。

在庫は、ボタン電話装置、自動車用音響機器、電話機が上昇し、液晶テレビジョン受信機、カーナビゲーションシステムが低下した。

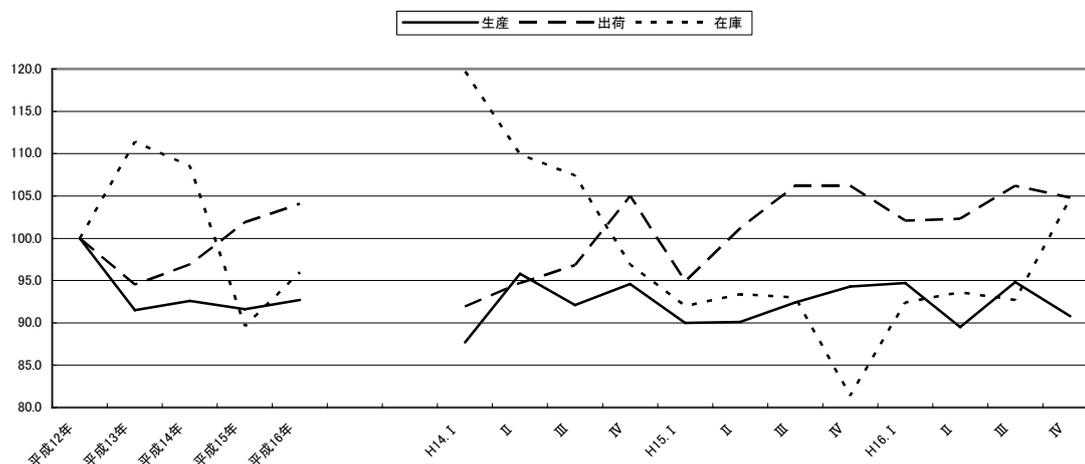
表18 情報通信機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	91.5	92.6	91.6	92.7
前年比(%)	4.9	▲ 8.5	1.2	▲ 1.1	1.2
出荷	100.0	94.5	96.9	101.9	104.1
前年比(%)	5.3	▲ 5.5	2.5	5.2	2.2
在庫	100.0	111.4	108.5	89.6	96.0
前年比(%)	17.6	11.4	▲ 2.6	▲ 17.4	7.1

表19 情報通信機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	87.7	95.8	92.1	94.6	90.0	90.1	92.4	94.3	94.7	89.5	94.8	90.8
前期比(%)	▲ 3.6	9.2	▲ 3.9	2.7	▲ 4.9	0.1	2.6	2.1	0.4	▲ 5.5	5.9	▲ 4.2
出荷	91.9	94.7	96.8	105.0	94.9	101.2	106.2	106.2	102.1	102.3	106.2	104.8
前期比(%)	0.8	3.0	2.2	8.5	▲ 9.6	6.6	4.9	0.0	▲ 3.9	0.2	3.8	▲ 1.3
在庫	119.7	109.9	107.4	96.9	92.0	93.4	93.0	81.4	92.4	93.6	92.7	104.7
前期比(%)	1.2	▲ 8.2	▲ 2.3	▲ 9.8	▲ 5.1	1.5	▲ 0.4	▲ 12.5	13.5	1.3	▲ 1.0	12.9

図13 情報通信機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



キ 電子部品・デバイス工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、97.7で前年比3.7%、出荷指数は93.1で同2.1%、在庫指数は254.0で同56.3%それぞれ上昇した。

生産指数及び出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は2年連続で上昇した（表20）。品目別で見ると、生産は、半導体集積回路、半導体素子、プリント配線板など4品目が上昇し、トランス、水晶振動子、テレビジョン・ビデオ用チューナなど9品目が低下した。

出荷は、半導体集積回路、半導体素子、プリント配線板など4品目が上昇し、トランス、水晶振動子、テレビジョン・ビデオ用チューナなど9品目が低下した。

在庫は、混成集積回路が上昇し、液晶素子、半導体素子が低下した。

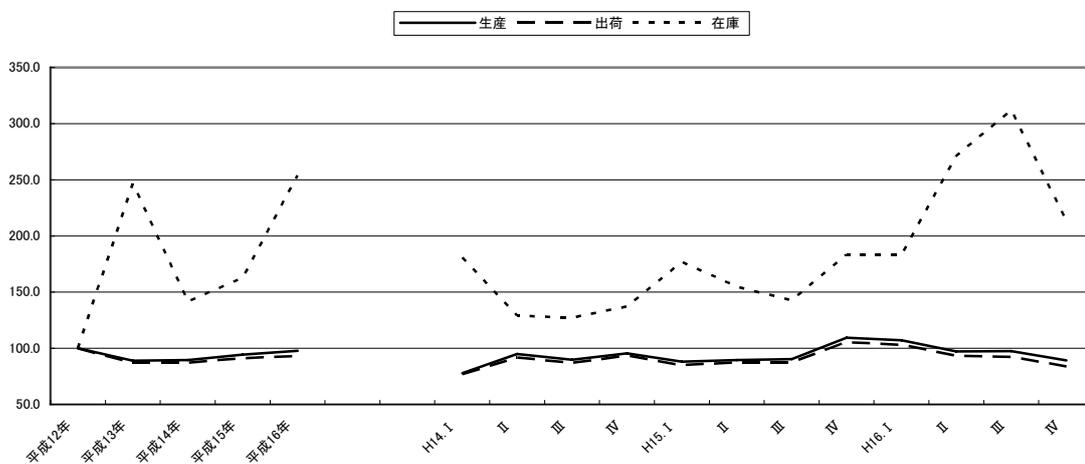
表20 電子部品・デバイス工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	88.9	89.5	94.2	97.7
前年比(%)		▲0.1	▲11.1	0.7	5.3
出荷	100.0	86.8	87.3	91.2	93.1
前年比(%)		▲5.5	▲13.2	0.6	4.5
在庫	100.0	246.7	141.6	162.5	254.0
前年比(%)	1.0	146.7	▲42.6	14.8	56.3

表21 電子部品・デバイス工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	77.7	94.8	89.9	95.5	88.0	89.6	90.3	109.4	107.1	97.1	97.5	89.1
前期比(%)	2.8	22.0	▲5.2	6.2	▲7.9	1.8	0.8	21.2	▲2.1	▲9.3	0.4	▲8.6
出荷	76.9	91.7	86.8	93.5	84.9	87.4	87.4	105.5	103.1	93.6	92.4	83.7
前期比(%)	6.2	19.2	▲5.3	7.7	▲9.2	2.9	0.0	20.7	▲2.3	▲9.2	▲1.3	▲9.4
在庫	180.8	129.0	127.4	137.3	176.6	154.7	142.6	183.4	183.1	271.3	311.9	213.4
前期比(%)	▲1.2	▲28.7	▲1.2	7.8	28.6	▲12.4	▲7.8	28.6	▲0.2	48.2	15.0	▲31.6

図14 電子部品・デバイス工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ク 輸送機械工業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、111.8で前年比10.7%、出荷指数は111.2で同10.5%、在庫指数は88.9で同15.5%それぞれ上昇した。

生産指数及び出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は3年ぶりに上昇した(表22)。品目別で見ると、生産は、ワイパー、自動車用シリンダーライナ、自動車車体部品など9品目が上昇し、自転車部品が低下した。

出荷は、ワイパー、自動車用シリンダーライナ、自動車用ポンプ類など8品目が上昇し、自転車部品、自転車が低下した。

在庫は、自転車が増加し、自転車部品が低下した。

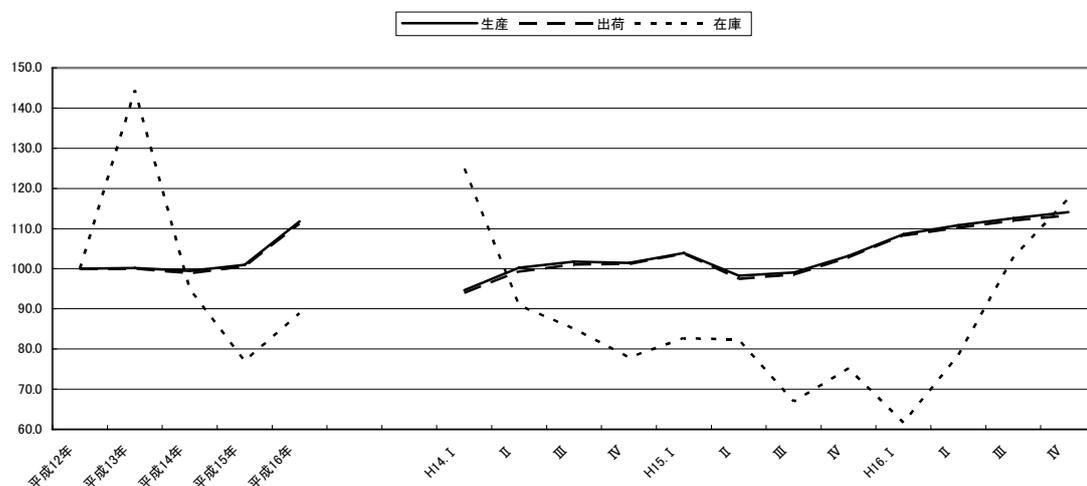
表22 輸送機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	100.2	99.5	101.0	111.8
前年比(%)		0.2	▲0.7	1.5	10.7
出荷	100.0	100.0	98.9	100.6	111.2
前年比(%)		0.0	▲1.1	1.7	10.5
在庫	100.0	144.4	94.9	77.0	88.9
前年比(%)		44.4	▲34.3	▲18.9	15.5

表23 輸送機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	94.6	100.3	101.8	101.5	103.9	98.3	99.1	103.2	108.6	110.8	112.6	114.1
前期比(%)	▲2.3	6.0	1.5	▲0.3	2.4	▲5.4	0.8	4.1	5.2	2.0	1.6	1.3
出荷	93.9	99.3	101.1	101.2	103.8	97.5	98.6	102.8	108.3	110.2	112.0	113.3
前期比(%)	▲2.8	5.8	1.8	0.1	2.6	▲6.1	1.1	4.3	5.4	1.8	1.6	1.2
在庫	124.9	90.8	85.0	77.9	82.7	82.3	66.9	75.2	61.7	78.4	102.8	117.5
前期比(%)	2.5	▲27.3	▲6.4	▲8.4	6.2	▲0.5	▲18.7	12.4	▲18.0	27.1	31.1	14.3

図15 輸送機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ケ 精密機械工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、79.1で前年比▲6.2%、出荷指数は82.4で同▲14.8%、在庫指数は104.9で同▲13.7%それぞれ低下した。

生産指数は3年連続で低下し、出荷指数は2年ぶりに低下し、在庫指数は2年連続で低下した（表24）。

品目別でみると、生産は、精密測定器、カメラ用交換レンズが上昇し、工業用計重機、分析機器、ガスメータなど6品目が低下した。

出荷は、精密測定器が上昇し、工業用計重機、カメラ、分析機器など6品目が低下した。

在庫は、カメラ用交換レンズ、ガスメータ、分析機器など4品目が低下した。

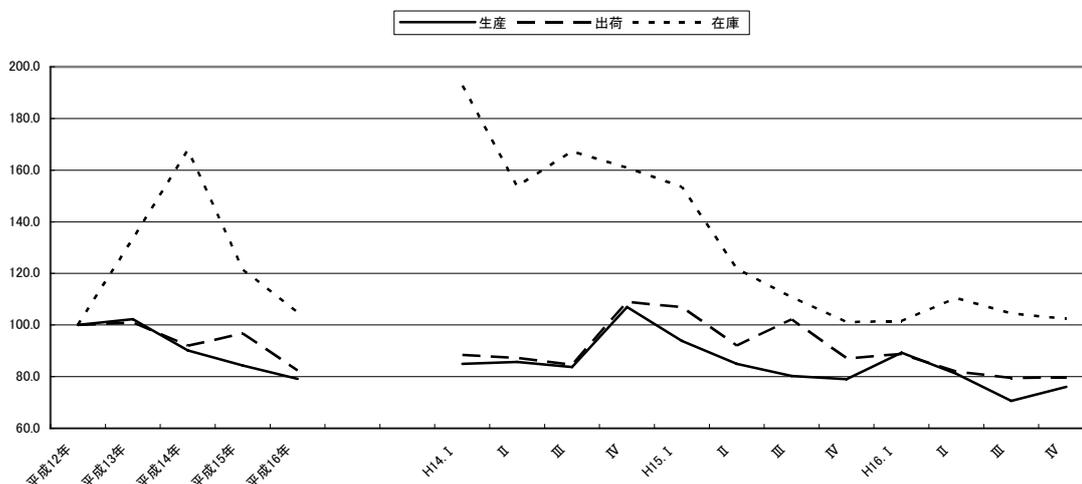
表24 精密機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	102.3	90.1	84.3	79.1
前年比(%)		▲19.5	2.3	▲11.9	▲6.4
出荷	100.0	100.9	92.0	96.7	82.4
前年比(%)		▲17.6	0.9	▲8.8	5.1
在庫	100.0	133.4	167.7	121.5	104.9
前年比(%)		54.6	33.4	25.7	▲27.5

表25 精密機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	84.9	85.7	83.7	107.0	93.9	84.9	80.3	79.0	89.3	81.1	70.6	76.1
前期比(%)	▲20.2	0.9	▲2.3	27.8	▲12.2	▲9.6	▲5.4	▲1.6	13.0	▲9.2	▲12.9	7.8
出荷	88.4	87.3	84.6	108.9	107.0	92.0	102.1	87.0	88.8	82.0	79.5	79.7
前期比(%)	▲11.2	▲1.2	▲3.1	28.7	▲1.7	▲14.0	11.0	▲14.8	2.1	▲7.7	▲3.0	0.3
在庫	192.7	153.7	167.2	161.0	153.5	121.8	110.7	101.1	101.5	110.4	104.5	102.4
前期比(%)	6.5	▲20.2	8.8	▲3.7	▲4.7	▲20.7	▲9.1	▲8.7	0.4	8.8	▲5.3	▲2.0

図16 精密機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



コ 窯業・土石製品工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、92.0で前年比1.1%上昇し、出荷指数は96.6で同▲0.5%、在庫指数は92.7で同▲24.2%それぞれ低下した。

生産指数は2年連続で上昇し、出荷指数は3年ぶりに低下し、在庫指数は4年ぶりに低下した（表26）。

品目別でみると、生産は、ファインセラミックス、ガラス基礎製品、遠心力鉄筋コンクリートパイプなど9品目が上昇し、護岸用コンクリートブロック、プレストレストコンクリート製品、ガラス製容器類など9品目が低下した。

出荷は、ファインセラミックス、ガラス基礎製品、ガラス短繊維など7品目が上昇し、護岸用コンクリートブロック、プレストレストコンクリート製品、ガラス製容器類など11品目が低下した。

在庫は、遠心力鉄筋コンクリートポール、ガラス短繊維、せっこうボードなど5品目が上昇し、ガラス基礎製品、護岸用コンクリートブロック、不定型耐火物など12品目が低下した。

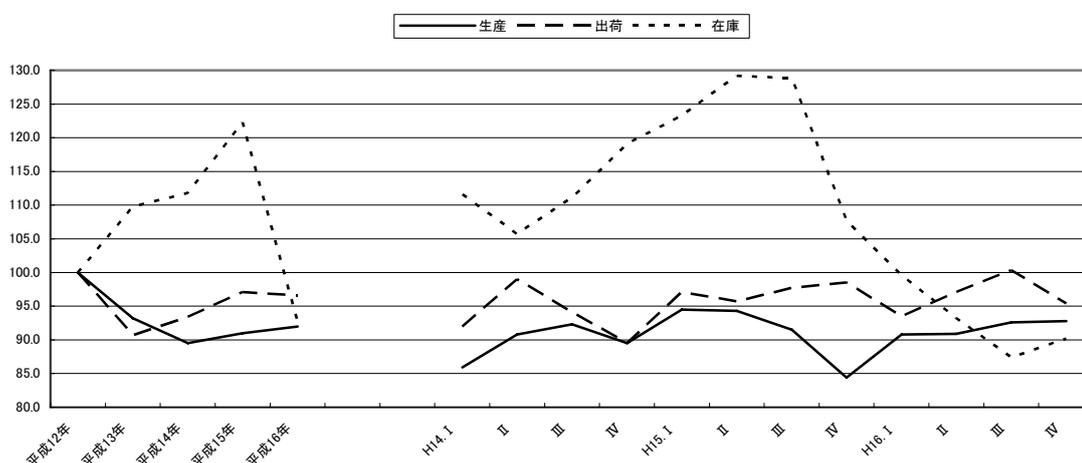
表26 窯業・土石製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	93.2	89.5	91.0	92.0
前年比(%)	2.7	▲6.8	▲4.0	1.7	1.1
出荷	100.0	90.7	93.4	97.1	96.6
前年比(%)	3.0	▲9.3	3.0	4.0	▲0.5
在庫	100.0	109.8	111.8	122.3	92.7
前年比(%)	▲9.1	9.8	1.8	9.4	▲24.2

表27 窯業・土石製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	85.9	90.8	92.3	89.5	94.5	94.3	91.5	84.4	90.8	90.9	92.6	92.8
前期比(%)	▲2.9	5.7	1.7	▲3.0	5.6	▲0.2	▲3.0	▲7.8	7.6	0.1	1.9	0.2
出荷	92.0	99.0	94.1	89.5	97.1	95.7	97.7	98.5	93.5	97.1	100.3	95.4
前期比(%)	3.7	7.6	▲4.9	▲4.9	8.5	▲1.4	2.1	0.8	▲5.1	3.9	3.3	▲4.9
在庫	111.6	105.7	111.1	119.1	123.3	129.2	128.8	107.7	99.6	93.2	87.4	90.2
前期比(%)	▲6.0	▲5.3	5.1	7.2	3.5	4.8	▲0.3	▲16.4	▲7.5	▲6.4	▲6.2	3.2

図17 窯業・土石製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12=100.0)



サ 化学工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、98.0で前年比▲0.4%低下し、出荷指数は95.9で同0.5%上昇し、在庫指数は121.5で同▲13.8%低下した。

生産指数は2年ぶりに低下し、出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は5年ぶりに低下した（表28）。

品目別でみると、生産は、ふっ素樹脂、フェノール樹脂、塩素酸ナトリウム類など14品目が上昇し、塩化ビニル樹脂、塩化メチル、動物用医薬品など13品目が低下した。

出荷は、ふっ素樹脂、フェノール樹脂、塩素酸ナトリウム類など18品目が上昇し、塩化ビニル樹脂、動物用医薬品、塩化メチルなど9品目が低下した。

在庫は、フェノール樹脂、酸化チタン、カーボンブラックなど9品目が上昇し、塩化ビニル樹脂、か性ソーダ、クロルベンゼンなど13品目が低下した。

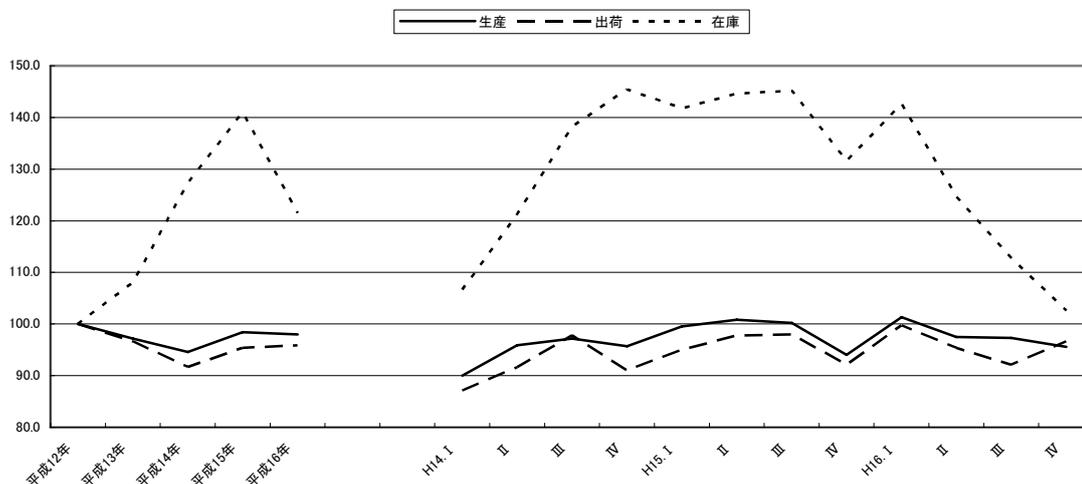
表28 化学工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	97.2	94.6	98.4	98.0
前年比(%)	9.1	▲2.8	▲2.7	4.0	▲0.4
出荷	100.0	96.6	91.7	95.4	95.9
前年比(%)	7.1	▲3.4	▲5.1	4.0	0.5
在庫	100.0	108.0	127.3	141.0	121.5
前年比(%)	3.5	8.0	17.9	10.8	▲13.8

表29 化学工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	90.0	95.9	97.2	95.7	99.5	100.8	100.2	94.0	101.3	97.5	97.3	95.6
前期比(%)	▲1.4	6.6	1.4	▲1.5	4.0	1.3	▲0.6	▲6.2	7.8	▲3.8	▲0.2	▲1.7
出荷	87.1	91.6	97.8	91.0	95.0	97.8	98.0	92.1	99.7	95.4	92.1	96.6
前期比(%)	▲2.0	5.2	6.8	▲7.0	4.4	2.9	0.2	▲6.0	8.3	▲4.3	▲3.5	4.9
在庫	106.6	121.2	138.2	145.4	141.8	144.6	145.2	131.6	142.6	124.7	112.8	102.6
前期比(%)	▲6.2	13.7	14.0	5.2	▲2.5	2.0	0.4	▲9.4	8.4	▲12.6	▲9.5	▲9.0

図18 化学工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



シ プラスチック製品工業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、106.7で前年比9.9%、出荷指数は121.4で同7.9%、在庫指数は171.3で同19.3%それぞれ上昇した。

生産指数は2年ぶりに上昇し、出荷指数及び在庫指数は3年連続で上昇した(表30)。品目別で見ると、生産は、強化製品、ウレタンフォーム、プラスチック製日用品・雑貨など6品目が上昇し、発泡製品が低下した。

出荷は、ウレタンフォーム、強化製品、プラスチック製日用品・雑貨など6品目が上昇し、発泡製品が低下した。

在庫は、ウレタンフォーム、プラスチック製機械器具部品、プラスチック製日用品・雑貨など4品目が上昇し、プラスチック製容器、発泡製品が低下した。

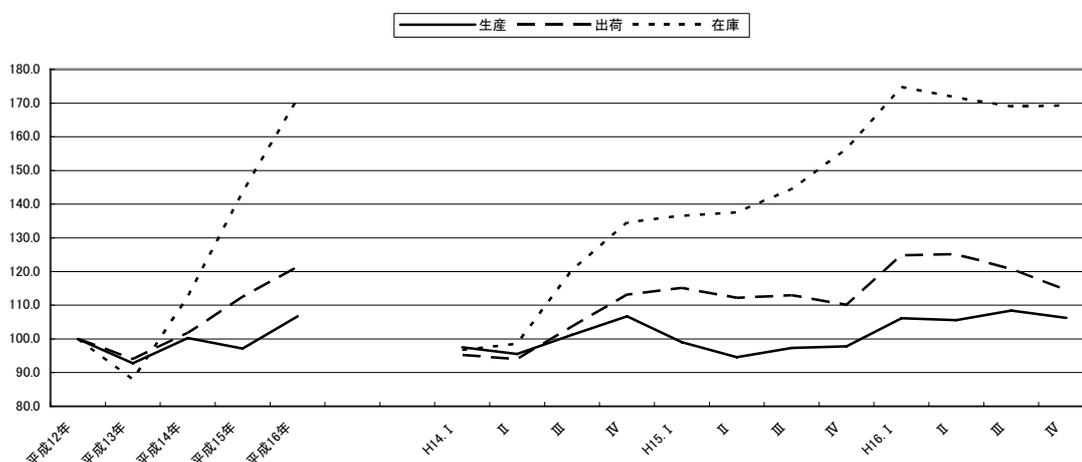
表30 プラスチック製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	92.8	100.3	97.1	106.7
前年比(%)		▲1.6	▲7.2	8.1	▲3.2
出荷	100.0	94.0	101.8	112.5	121.4
前年比(%)		2.5	▲6.0	8.3	10.5
在庫	100.0	88.0	112.6	143.6	171.3
前年比(%)		▲16.9	▲12.0	28.0	27.5

表31 プラスチック製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	97.5	95.5	101.2	106.7	99.0	94.6	97.3	97.8	106.1	105.6	108.4	106.2
前期比(%)	8.0	▲2.1	6.0	5.4	▲7.2	▲4.4	2.9	0.5	8.5	▲0.5	2.7	▲2.0
出荷	95.2	94.0	103.7	113.1	115.1	112.2	113.0	110.1	124.9	125.2	120.7	114.5
前期比(%)	5.4	▲1.3	10.3	9.1	1.8	▲2.5	0.7	▲2.6	13.4	0.2	▲3.6	▲5.1
在庫	96.8	98.6	120.4	134.6	136.6	137.6	144.5	156.4	174.8	171.7	169.0	169.3
前期比(%)	13.7	1.9	22.1	11.8	1.5	0.7	5.0	8.2	11.8	▲1.8	▲1.6	0.2

図19 プラスチック製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ス パルプ・紙・紙加工品工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、108.5で前年比3.7%、出荷指数は111.2で同4.1%、在庫指数は118.4で同0.1%それぞれ上昇した。

生産指数は6年連続で上昇し、出荷指数は7年連続で上昇し、在庫指数は6年連続で上昇した（表32）。

品目別でみると、生産は、塗工紙、段ボールシート、段ボール箱など6品目が上昇し、雑板紙、雑種紙が低下した。

出荷は、塗工紙、段ボールシート、段ボール箱など4品目が上昇し、雑板紙、雑種紙、情報用紙など4品目が低下した。

在庫は、段ボールシート、塗工紙が上昇し、雑種紙、段ボール箱、雑板紙など4品目が低下した。

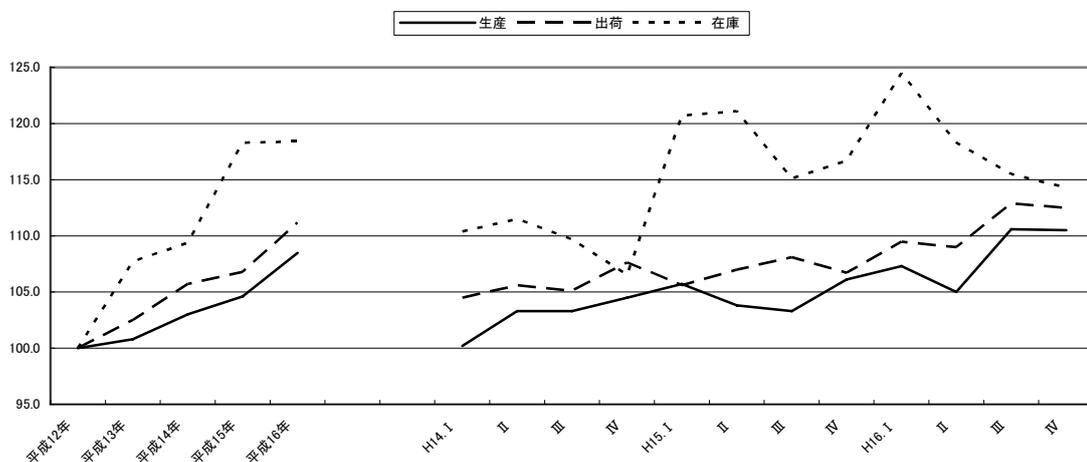
表32 パルプ・紙・紙加工品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	100.8	103.0	104.6	108.5
前年比(%)		2.1	0.8	2.2	1.6
出荷	100.0	102.5	105.7	106.8	111.2
前年比(%)		0.8	2.5	3.1	1.0
在庫	100.0	107.7	109.4	118.3	118.4
前年比(%)		2.1	7.7	1.6	8.1

表33 パルプ・紙・紙加工品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	100.2	103.3	103.3	104.5	105.7	103.8	103.3	106.1	107.3	105.0	110.6	110.5
前期比(%)	▲0.8	3.1	0.0	1.2	1.1	▲1.8	▲0.5	2.7	1.1	▲2.1	5.3	▲0.1
出荷	104.5	105.6	105.1	107.6	105.6	107.0	108.1	106.7	109.5	109.0	112.9	112.5
前期比(%)	1.6	1.1	▲0.5	2.4	▲1.9	1.3	1.0	▲1.3	2.6	▲0.5	3.6	▲0.4
在庫	110.4	111.5	109.7	106.5	120.7	121.1	115.1	116.7	124.5	118.3	115.5	114.3
前期比(%)	2.2	1.0	▲1.6	▲2.9	13.3	0.3	▲5.0	1.4	6.7	▲5.0	▲2.4	▲1.0

図20 パルプ・紙・紙加工品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



セ 繊維工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、78.0で前年比▲5.2%、出荷指数は78.9で同▲2.1%、在庫指数は105.3で同▲1.1%それぞれ低下した。

生産指数及び出荷指数は7年連続で低下し、在庫指数は3年ぶりに低下した（表34）。品目別でみると、生産は、合成繊維織物、合成繊維、ニット製外衣が上昇し、ニット製下着、織物製外衣、絹・絹紡織物など7品目が低下した。

出荷は、ニット製外衣、ニット製靴下、合成繊維織物など4品目が上昇し、ニット製下着、絹・絹紡織物、ふとんなど6品目が低下した。

在庫は、織物製補整着、ニット製下着、織物製外衣など4品目が上昇し、ニット製靴下、染色整理、絹・絹紡織物など6品目が低下した。

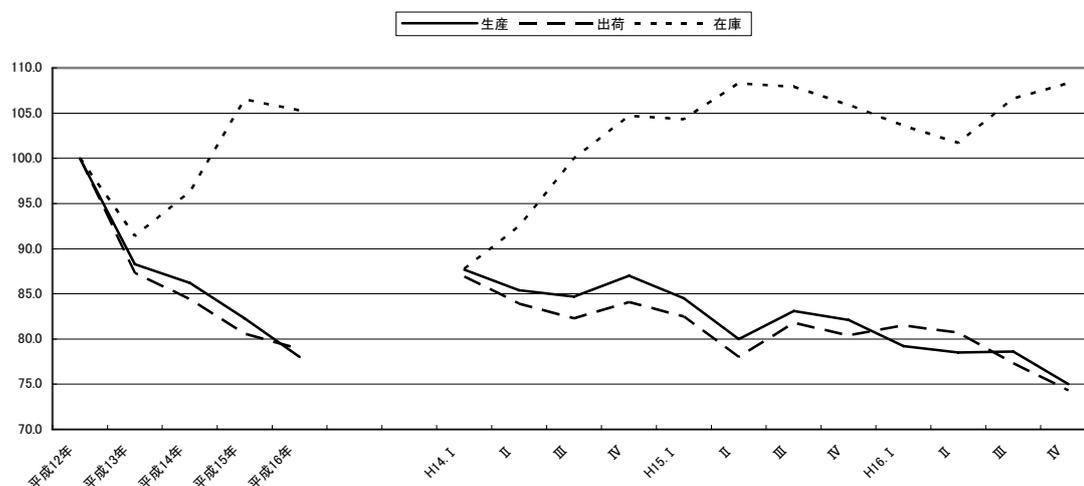
表34 繊維工業年別指数の推移（原指数 平成12年=100.0）

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	88.3	86.2	82.3	78.0
前年比(%)		▲12.1	▲11.7	▲2.4	▲4.5
出荷	100.0	87.3	84.4	80.6	78.9
前年比(%)		▲10.6	▲12.7	▲3.3	▲4.5
在庫	100.0	91.4	96.3	106.5	105.3
前年比(%)		▲3.9	▲8.6	5.4	10.6
					▲1.1

表35 繊維工業四半期別指数の推移（季節調整済指数 平成12年=100.0）

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	87.7	85.4	84.7	87.0	84.5	80.0	83.1	82.1	79.2	78.5	78.6	75.0
前期比(%)	1.9	▲2.6	▲0.8	2.7	▲2.9	▲5.3	3.9	▲1.2	▲3.5	▲0.9	0.1	▲4.6
出荷	86.9	83.9	82.3	84.1	82.5	78.0	81.8	80.4	81.5	80.7	77.3	74.3
前期比(%)	2.6	▲3.5	▲1.9	2.2	▲1.9	▲5.5	4.9	▲1.7	1.4	▲1.0	▲4.2	▲3.9
在庫	87.8	92.5	100.0	104.7	104.3	108.3	107.9	105.9	103.6	101.7	106.6	108.3
前期比(%)	▲1.2	5.4	8.1	4.7	▲0.4	3.8	▲0.4	▲1.9	▲2.2	▲1.8	4.8	1.6

図21 繊維工業年別（原指数）・四半期別（季節調整済指数）指数の推移（平成12年=100.0）



ソ 食料品・たばこ工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、95.2で前年比▲2.1%、出荷指数は97.8で同▲0.6%、在庫指数は121.3で同▲4.6%それぞれ低下した。

生産指数及び出荷指数は3年連続で低下し、在庫指数は4年ぶりに低下した（表36）。

品目別でみると、生産は、海藻加工品、冷凍調理食品、水産練製品など10品目が上昇し、醤油、精米、豆腐・油揚げなど15品目が低下した。

出荷は、海藻加工品、焼酎、冷凍調理食品など10品目が上昇し、冷凍水産物、醤油、精米など15品目が低下した。

在庫は、焼酎、練乳・粉乳、みそが上昇し、精米、配合飼料、清涼飲料など8品目が低下した。

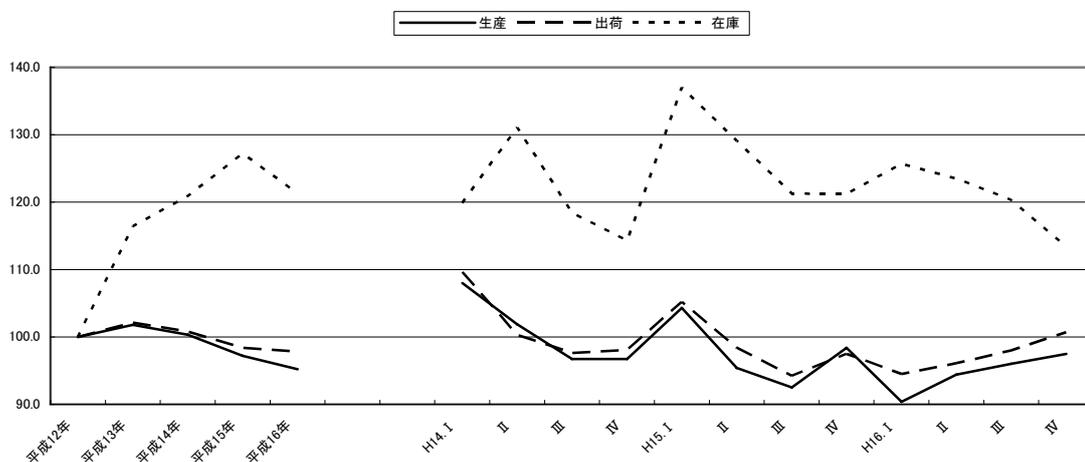
表36 食料品・たばこ工業年別指数の推移（原指数 平成12年=100.0）

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	101.8	100.3	97.2	95.2
前年比(%)		▲1.9	1.8	▲1.5	▲3.1
出荷	100.0	102.1	100.8	98.4	97.8
前年比(%)		▲2.4	2.1	▲1.3	▲2.4
在庫	100.0	116.4	120.9	127.2	121.3
前年比(%)		▲4.1	16.4	3.9	5.2

表37 食料品・たばこ工業四半期別指数の推移（季節調整済指数 平成12年=100.0）

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	108.0	101.9	96.7	96.7	104.3	95.4	92.5	98.4	90.4	94.4	96.0	97.5
前期比(%)	4.9	▲5.6	▲5.1	0.0	7.9	▲8.5	▲3.0	6.4	▲8.1	4.4	1.7	1.6
出荷	109.6	100.3	97.6	98.1	105.2	98.4	94.2	97.5	94.5	96.1	98.0	100.7
前期比(%)	5.5	▲8.5	▲2.7	0.5	7.2	▲6.5	▲4.3	3.5	▲3.1	1.7	2.0	2.8
在庫	119.9	131.1	118.4	114.3	137.0	129.1	121.3	121.2	125.7	123.5	120.3	113.4
前期比(%)	10.8	9.3	▲9.7	▲3.5	19.9	▲5.8	▲6.0	▲0.1	3.7	▲1.8	▲2.6	▲5.7

図22 食料品・たばこ工業年別（原指数）・四半期別（季節調整済指数）指数の推移（平成12年=100.0）



タ ゴム、皮革製品工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、107.4で前年比1.2%、出荷指数は129.6で同0.9%それぞれ上昇し、在庫指数は83.4で同▲0.4%低下した。

生産指数は3年連続で上昇し、出荷指数は2年連続で上昇し、在庫指数は2年連続で低下した（表38）。

品目別でみると、生産は、革靴、自動車用タイヤが上昇し、ゴム製履物、工業用ゴム製品が低下した。

出荷は、ゴム製履物、革靴、自動車用タイヤが上昇し、工業用ゴム製品が低下した。
在庫は、ゴム製履物が上昇し、工業用ゴム製品、革靴が低下した。

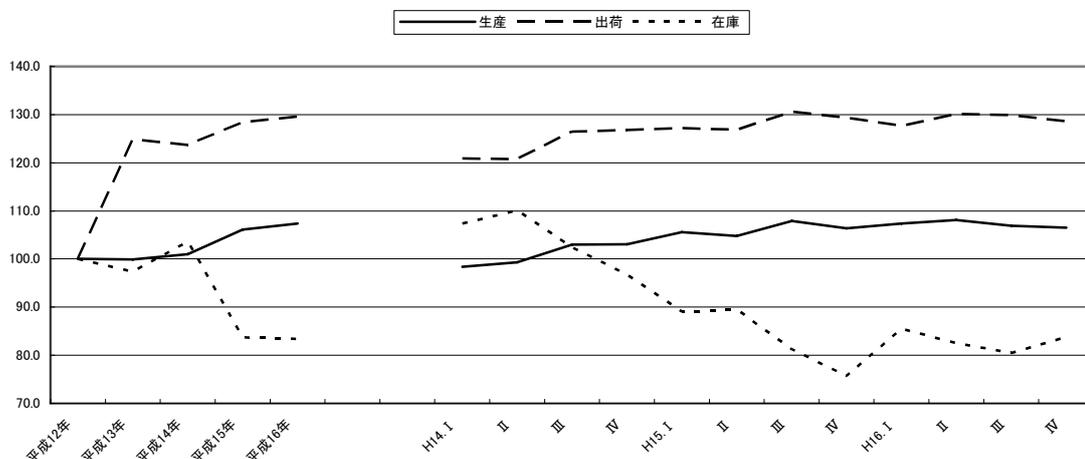
表38 ゴム、皮革製品工業年別指数の推移（原指数 平成12年=100.0）

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	99.9	101.0	106.1	107.4
前年比(%)		▲0.1	1.1	5.0	1.2
▲35.1					
出荷	100.0	124.9	123.7	128.4	129.6
前年比(%)		24.9	▲1.0	3.8	0.9
▲28.4					
在庫	100.0	97.4	103.6	83.7	83.4
前年比(%)		▲2.6	6.4	▲19.2	▲0.4
▲2.0					

表39 ゴム、皮革製品工業四半期別指数の推移（季節調整済指数 平成12年=100.0）

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	98.4	99.3	103.0	103.1	105.6	104.8	107.9	106.4	107.4	108.1	106.9	106.5
前期比(%)	▲1.5	0.9	3.7	0.1	2.4	▲0.8	3.0	▲1.4	0.9	0.7	▲1.1	▲0.4
出荷	120.9	120.8	126.5	126.8	127.2	126.9	130.6	129.4	127.7	130.1	129.9	128.6
前期比(%)	▲5.0	▲0.1	4.7	0.2	0.3	▲0.2	2.9	▲0.9	▲1.3	1.9	▲0.2	▲1.0
在庫	107.4	110.1	102.4	96.7	89.0	89.5	81.2	75.7	85.5	82.5	80.5	83.8
前期比(%)	0.3	2.5	▲7.0	▲5.6	▲8.0	0.6	▲9.3	▲6.8	12.9	▲3.5	▲2.4	4.1

図23 ゴム、皮革製品工業年別（原指数）・四半期別（季節調整済指数）指数の推移（平成12年=100.0）



チ 木材・木製品工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、63.8で前年比▲6.2%、出荷指数は64.1で同▲7.4%、在庫指数は105.1で同▲0.8%それぞれ低下した。

生産指数は4年連続で低下し、出荷指数は2年ぶりに低下し、在庫指数は2年連続で低下した（表40）。

品目別でみると、生産は、パーティクルボードが上昇し、繊維板、一般製材が低下した。

出荷は、パーティクルボードが上昇し、繊維板、一般製材が低下した。

在庫は、パーティクルボードが上昇し、繊維板、一般製材が低下した。

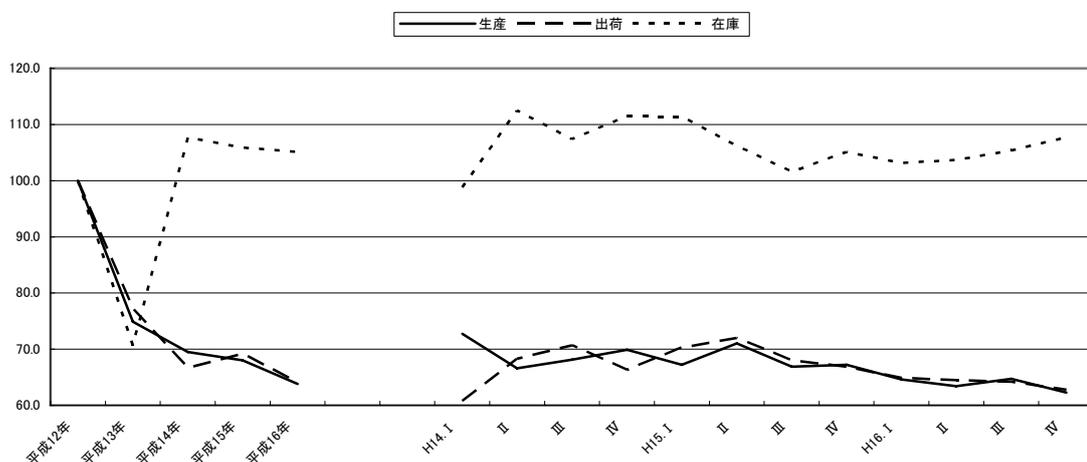
表40 木材・木製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	74.9	69.5	68.0	63.8
前年比(%)	10.4	▲25.1	▲7.2	▲2.2	▲6.2
出荷	100.0	77.3	66.7	69.2	64.1
前年比(%)	7.4	▲22.7	▲13.7	3.7	▲7.4
在庫	100.0	70.7	107.7	105.9	105.1
前年比(%)	▲24.4	▲29.3	52.3	▲1.7	▲0.8

表41 木材・木製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	72.7	66.6	68.1	69.9	67.2	71.0	66.9	67.2	64.6	63.4	64.7	62.3
前期比(%)	7.7	▲8.4	2.3	2.6	▲3.9	5.7	▲5.8	0.4	▲3.9	▲1.9	2.1	▲3.7
出荷	60.8	68.3	70.7	66.3	70.3	72.0	68.0	66.9	64.9	64.5	64.2	62.8
前期比(%)	▲9.8	12.3	3.5	▲6.2	6.0	2.4	▲5.6	▲1.6	▲3.0	▲0.6	▲0.5	▲2.2
在庫	98.8	112.5	107.4	111.5	111.4	106.2	101.6	105.1	103.2	103.7	105.4	107.7
前期比(%)	51.8	13.9	▲4.5	3.8	▲0.1	▲4.7	▲4.3	3.4	▲1.8	0.5	1.6	2.2

図24 木材・木製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移
(平成12年=100.0)



ツ その他製品工業

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、92.6で前年比▲0.4%、出荷指数は91.6で同▲1.3%それぞれ低下し、在庫指数は90.4で同4.1%上昇した。

生産指数及び出荷指数は2年連続で低下し、在庫指数は平成10年以降はじめて上昇した（表42）。

品目別でみると、生産は、印刷物が上昇し、その他の木製家具、玩具、台所用金属製家具など4品目が低下した。

出荷は、印刷物、玩具が上昇し、その他の木製家具、ペン、台所用金属製家具が低下した。

在庫は、玩具、台所用金属製家具が上昇した。

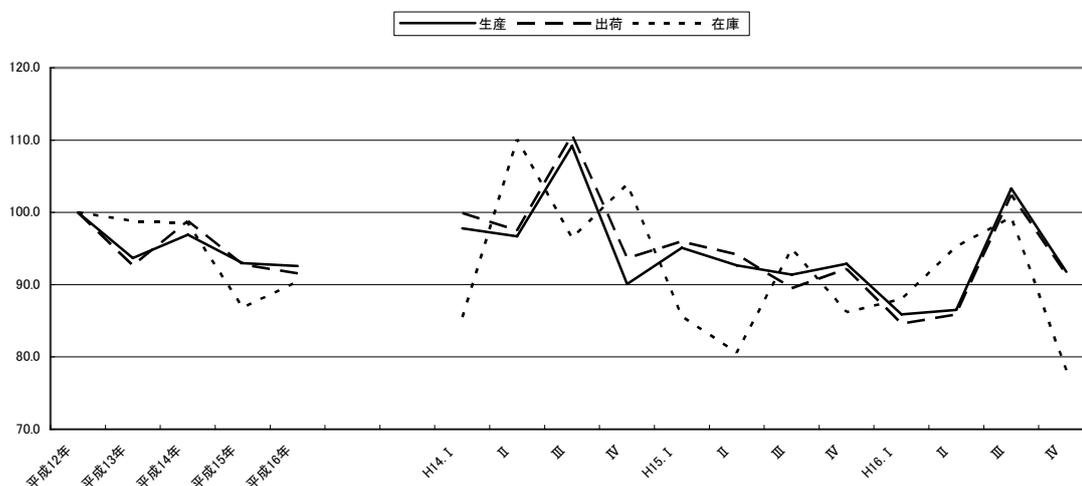
表42 その他製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	93.7	96.9	93.0	92.6
前年比(%)	3.2	▲6.3	3.4	▲4.0	▲0.4
出荷	100.0	92.7	98.8	92.8	91.6
前年比(%)	3.8	▲7.3	6.6	▲6.1	▲1.3
在庫	100.0	98.8	98.5	86.8	90.4
前年比(%)	▲5.5	▲1.2	▲0.3	▲11.9	4.1

表43 その他製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	97.8	96.7	109.2	90.1	95.1	92.7	91.4	92.9	85.9	86.5	103.3	91.8
前期比(%)	3.8	▲1.1	12.9	▲17.5	5.5	▲2.5	▲1.4	1.6	▲7.5	0.7	19.4	▲11.1
出荷	99.9	97.5	110.7	93.7	96.0	94.2	89.5	92.2	84.6	85.9	102.4	91.4
前期比(%)	3.3	▲2.4	13.5	▲15.4	2.5	▲1.9	▲5.0	3.0	▲8.2	1.5	19.2	▲10.7
在庫	85.5	110.1	96.5	103.9	85.6	80.6	95.0	86.2	88.0	95.3	99.3	78.1
前期比(%)	▲4.1	28.8	▲12.4	7.7	▲17.6	▲5.8	17.9	▲9.3	2.1	8.3	4.2	▲21.3

図25 その他製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



テ 鋳業

平成16年の生産指数(原指数年平均)は、91.3で前年比▲18.1%、出荷指数は91.3で同▲17.6%それぞれ低下し、在庫指数は41.8で同33.1%上昇した。

生産指数及び出荷指数は2年ぶりに低下し、在庫指数は2年連続で上昇した(表44)。

品目別で見ると、生産は、原油、天然ガス、けい砂など4品目が低下した。

出荷は、石灰石が上昇し、原油、天然ガス、けい砂が低下した。

在庫は、けい砂、石灰石が上昇し、原油が低下した。

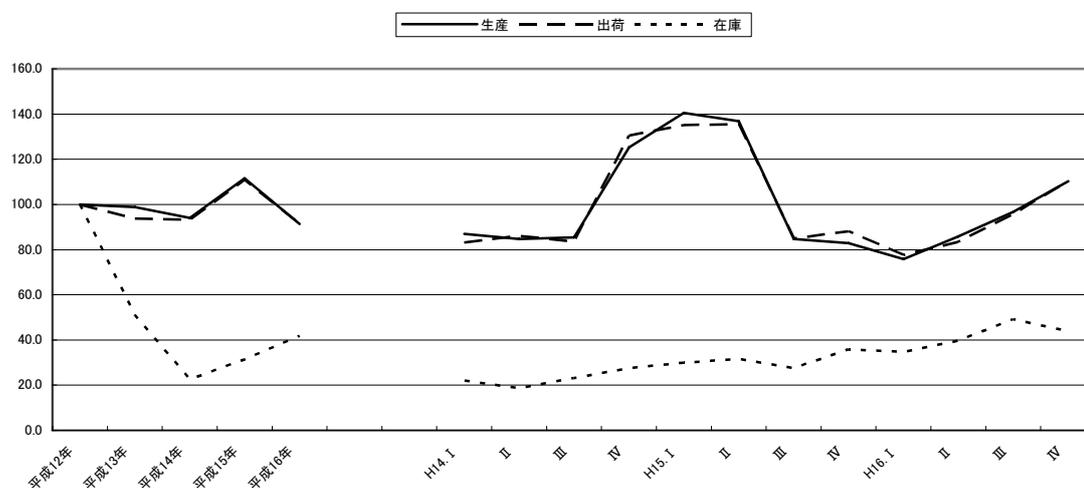
表44 鋳業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	100.0	98.8	94.1	111.5	91.3
前年比(%)	3.0	▲1.2	▲4.8	18.5	▲18.1
出荷	100.0	93.8	93.2	110.8	91.3
前年比(%)	▲5.3	▲6.2	▲0.6	18.9	▲17.6
在庫	100.0	51.0	22.6	31.4	41.8
前年比(%)	▲24.3	▲49.0	▲55.7	38.9	33.1

表45 鋳業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	87.0	84.7	85.4	125.2	140.5	136.8	84.7	82.9	75.8	85.8	96.7	110.3
前期比(%)	▲0.8	▲2.6	0.8	46.6	12.2	▲2.6	▲38.1	▲2.1	▲8.6	13.2	12.7	14.1
出荷	83.2	86.2	83.6	130.5	135.2	135.4	85.0	88.1	77.7	83.5	95.7	110.4
前期比(%)	19.7	3.6	▲3.0	56.1	3.6	0.1	▲37.2	3.6	▲11.8	7.5	14.6	15.4
在庫	22.0	18.6	23.2	27.5	30.0	31.7	27.6	35.8	34.8	39.7	49.2	43.9
前期比(%)	10.0	▲15.5	24.7	18.5	9.1	5.7	▲12.9	29.7	▲2.8	14.1	23.9	▲10.8

図26 鋳業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



(3) 財別の動向

ア 概況

平成16年の財別生産指数（原指数年平均）は、最終需要財 91.1 で前年比 0.6%、生産財 108.2 で同 8.6%それぞれ上昇した。

出荷指数（原指数年平均）は、最終需要財 95.8 で前年比 0.7%、生産財 114.2 で同 10.3%それぞれ上昇した。

在庫指数（原指数年平均）は、最終需要財 102.5 で前年比▲1.0%低下し、生産財 150.0 で同 4.0%上昇した（表46）。

最終需要財の季節調整済指数を四半期別にみると、生産指数及び出荷指数は年間を通して上昇と低下を繰り返し、横ばい傾向で推移した。在庫指数は、Ⅰ期～Ⅲ期に3期連続で上昇し、Ⅳ期で低下した（表47）。

生産財（季節調整済指数）の生産指数及び出荷指数は、Ⅲ期まで平成15年Ⅲ期から5期連続で上昇し、Ⅳ期で低下した。在庫指数は、Ⅰ期、Ⅱ期で上昇し、Ⅲ期、Ⅳ期で低下した（表48）。

表46 財別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

		最終需要財												生産財			
		投資財						消費財						年平均 指数	前年比 (%)		
		資本財		建設財		耐久消費財		非耐久消費財									
年平均 指数	前年比 (%)																
生 産	平成12年	100.0	0.4	100.0	1.1	100.0	2.9	100.0	▲1.0	100.0	0.1	100.0	3.5	100.0	▲1.2	100.0	1.4
	平成13年	94.7	▲5.3	93.9	▲6.2	98.1	▲1.9	88.3	▲11.7	95.1	▲4.9	86.3	▲13.7	98.3	▲1.7	93.0	▲7.0
	平成14年	90.4	▲4.5	88.2	▲6.0	98.3	0.2	75.0	▲15.0	91.5	▲3.8	84.4	▲2.2	94.2	▲4.2	95.8	3.0
	平成15年	90.6	0.2	89.8	1.8	98.6	0.3	78.5	4.7	91.0	▲0.5	83.2	▲1.4	93.9	▲0.3	99.6	4.0
	平成16年	91.1	0.6	96.1	7.0	109.5	11.1	78.8	0.4	88.5	▲2.7	77.1	▲7.3	92.7	▲1.3	108.2	8.6
出 荷	平成12年	100.0	0.8	100.0	1.5	100.0	3.1	100.0	▲1.3	100.0	0.4	100.0	4.1	100.0	▲1.1	100.0	0.9
	平成13年	95.4	▲4.6	95.5	▲4.5	99.8	▲0.2	87.6	▲12.4	95.4	▲4.6	87.4	▲12.6	98.7	▲1.3	92.5	▲7.5
	平成14年	92.0	▲3.6	91.0	▲4.7	101.2	1.4	72.3	▲17.5	92.6	▲2.9	88.0	0.7	94.5	▲4.3	96.9	4.8
	平成15年	95.1	3.4	97.3	6.9	107.5	6.2	78.7	8.9	93.8	1.3	92.0	4.5	94.5	0.0	103.5	6.8
	平成16年	95.8	0.7	101.6	4.4	114.1	6.1	78.8	0.1	92.5	▲1.4	87.5	▲4.9	94.6	0.1	114.2	10.3
在 庫	平成12年	100.0	4.8	100.0	1.8	100.0	35.9	100.0	▲11.4	100.0	6.4	100.0	25.8	100.0	▲3.5	100.0	▲1.4
	平成13年	108.6	8.6	109.6	9.6	149.3	49.3	86.1	▲13.9	108.1	8.1	100.7	0.7	113.0	13.0	125.3	25.3
	平成14年	109.1	0.4	108.4	▲1.1	138.4	▲7.3	90.5	5.1	109.5	1.3	99.2	▲1.5	116.2	2.8	125.6	0.2
	平成15年	103.5	▲5.1	93.4	▲13.8	103.7	▲25.1	87.2	▲3.6	108.4	▲1.0	87.3	▲12.0	122.4	5.3	144.2	14.8
	平成16年	102.5	▲1.0	97.4	4.3	121.9	17.6	83.0	▲4.8	104.9	▲3.2	85.9	▲1.6	117.4	▲4.1	150.0	4.0

表47 最終需要財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
生産 前期比(%)	90.8	91.2	89.6	90.5	93.1	89.2	89.5	91.4	91.0	89.2	91.7	91.7
	▲2.2	0.4	▲1.8	1.0	2.9	▲4.2	0.3	2.1	▲0.4	▲2.0	2.8	0.0
出荷 前期比(%)	91.7	91.2	91.7	93.8	95.4	94.3	96.1	95.1	95.6	94.0	96.3	96.7
	▲0.5	▲0.5	0.5	2.3	1.7	▲1.2	1.9	▲1.0	0.5	▲1.7	2.4	0.4
在庫 前期比(%)	112.7	115.8	107.6	100.9	106.9	109.7	103.1	95.0	98.0	103.4	104.0	103.4
	5.1	2.8	▲7.1	▲6.2	5.9	2.6	▲6.0	▲7.9	3.2	5.5	0.6	▲0.6

図27 最終需要財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

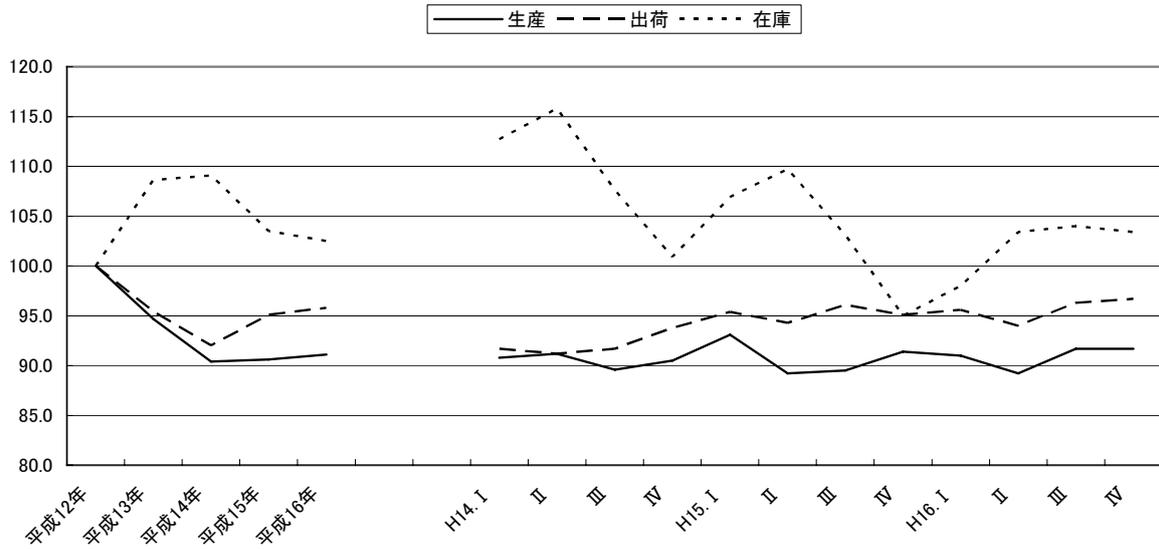
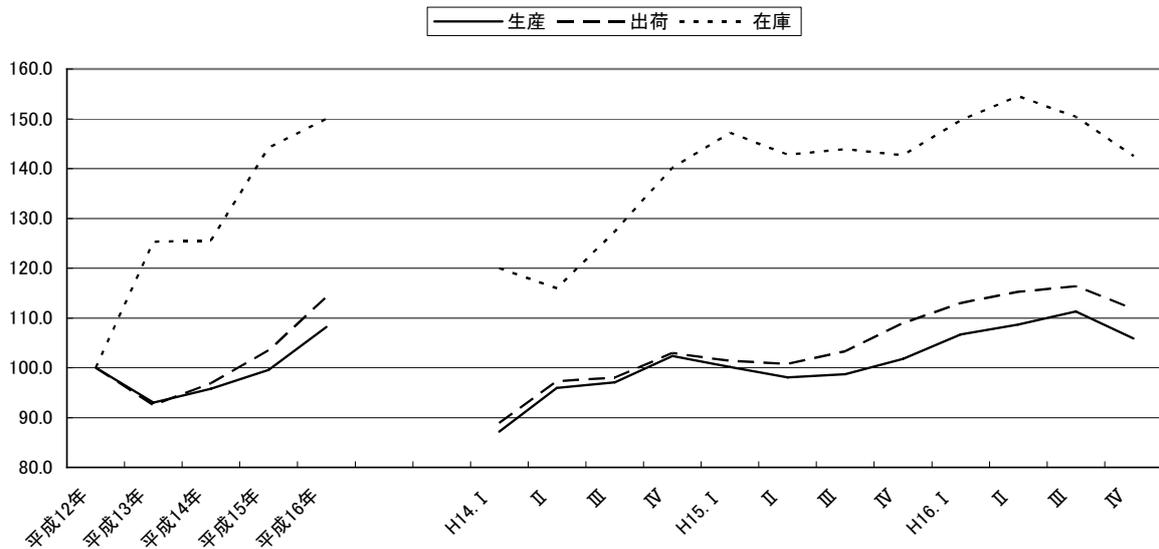


表48 生産財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	87.2	96.0	97.1	102.4	100.2	98.1	98.7	101.8	106.7	108.7	111.3	105.9
前期比(%)	0.3	10.1	1.1	5.5	▲ 2.1	▲ 2.1	0.6	3.1	4.8	1.9	2.4	▲ 4.9
出荷	88.9	97.3	98.0	103.0	101.4	100.8	103.3	109.0	113.0	115.3	116.4	111.8
前期比(%)	3.1	9.4	0.7	5.1	▲ 1.6	▲ 0.6	2.5	5.5	3.7	2.0	1.0	▲ 4.0
在庫	120.0	116.0	127.4	140.2	147.2	142.8	143.9	142.7	149.7	154.5	150.4	142.5
前期比(%)	▲ 1.8	▲ 3.3	9.8	10.0	5.0	▲ 3.0	0.8	▲ 0.8	4.9	3.2	▲ 2.7	▲ 5.3

図28 生産財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



イ 投資財

平成16年の投資財の生産指数(原指数年平均)は、資本財が109.5で前年比11.1%、建設財が78.8で同0.4%それぞれ上昇し、全体として96.1となり同7.0%の上昇となった。

出荷指数(原指数年平均)は、資本財が114.1で前年比6.1%、建設財が78.8で同0.1%それぞれ上昇し、全体として101.6となり同4.4%の上昇となった。

在庫指数(原指数年平均)は、資本財が121.9で前年比17.6%上昇し、建設財が83.0で同▲4.8%低下し、全体として97.4となり同4.3%の上昇となった(表46)。

投資財の季節調整済指数を四半期別にみると、生産指数は、Ⅲ期まで平成15年Ⅲ期から5期連続で上昇し、Ⅳ期で低下した。出荷指数は、Ⅰ期で低下した後、Ⅱ期で上昇し、Ⅲ期で横ばい、Ⅳ期で低下した。在庫指数は、Ⅰ期で上昇した後、上昇傾向で推移した(表49)。

表49 投資財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	84.6	88.6	89.5	90.3	87.0	86.9	92.9	93.1	93.8	97.3	98.3	95.0
前期比(%)	▲4.4	4.7	1.0	0.9	▲3.7	▲0.1	6.9	0.2	0.8	3.7	1.0	▲3.4
出荷	85.9	88.2	94.0	96.1	92.4	95.2	101.9	100.3	99.7	103.1	103.1	100.4
前期比(%)	▲2.4	2.7	6.6	2.2	▲3.9	3.0	7.0	▲1.6	▲0.6	3.4	0.0	▲2.6
在庫	120.1	114.1	103.2	97.1	103.8	92.7	93.2	84.8	87.5	99.1	100.5	101.7
前期比(%)	6.4	▲5.0	▲9.6	▲5.9	6.9	▲10.7	0.5	▲9.0	3.2	13.3	1.4	1.2

図29 投資財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

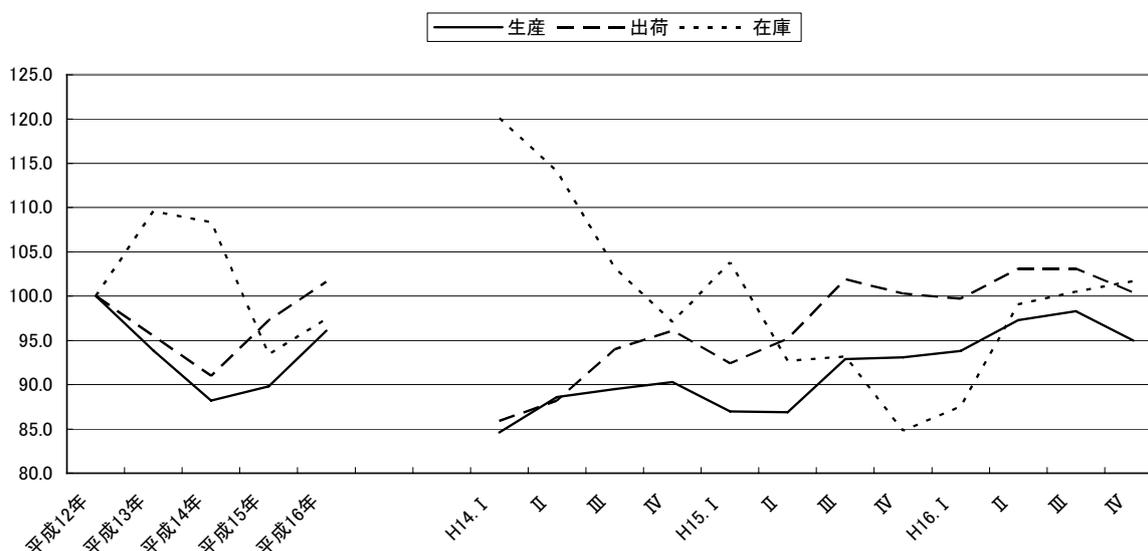


表50 資本財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	91.9	98.7	100.3	103.3	94.9	91.9	102.8	105.3	105.2	111.1	112.1	108.9
前期比(%)	▲2.4	7.4	1.6	3.0	▲8.1	▲3.2	11.9	2.4	▲0.1	5.6	0.9	▲2.9
出荷	94.6	96.5	105.5	109.8	100.5	103.4	113.6	113.7	109.5	115.3	115.4	115.2
前期比(%)	3.1	2.0	9.3	4.1	▲8.5	2.9	9.9	0.1	▲3.7	5.3	0.1	▲0.2
在庫	184.3	148.0	123.8	101.8	120.9	96.4	101.3	98.4	103.6	127.3	120.8	137.6
前期比(%)	8.7	▲19.7	▲16.4	▲17.8	18.8	▲20.3	5.1	▲2.9	5.3	22.9	▲5.1	13.9

図30 資本財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

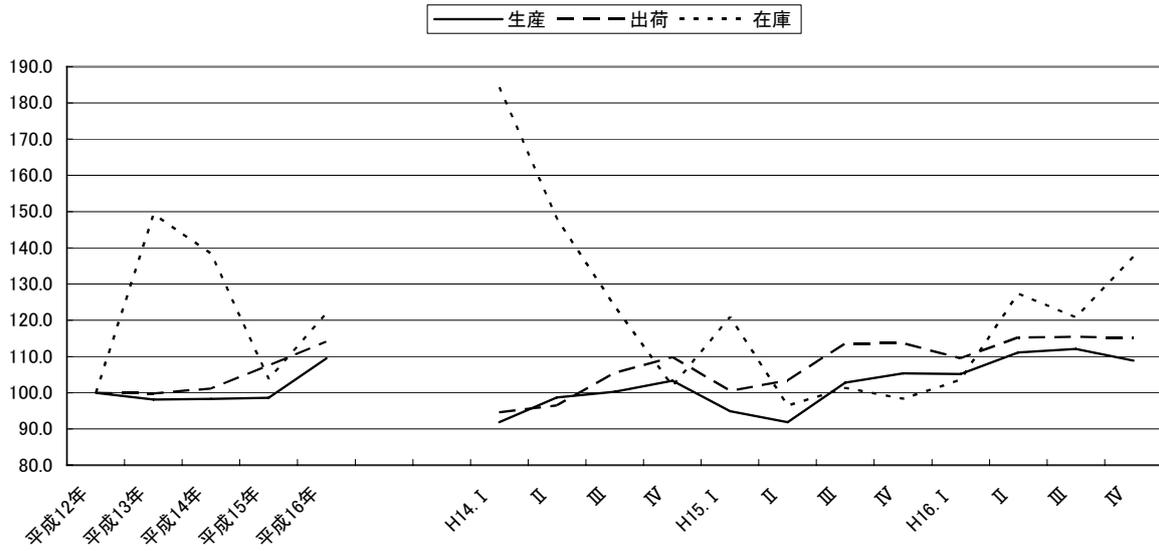
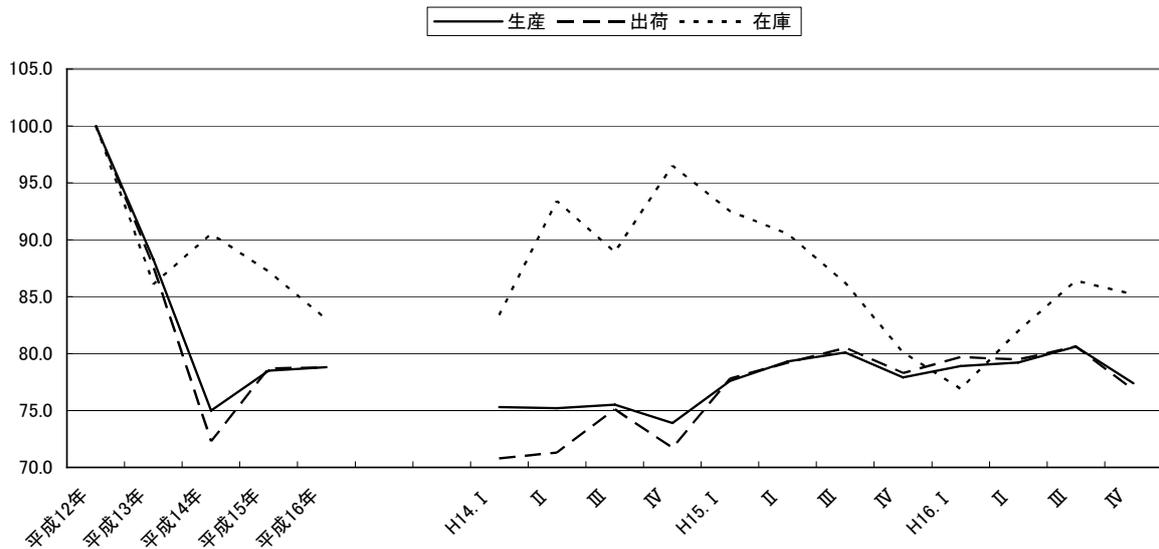


表51 建設財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	75.3	75.2	75.5	73.9	77.6	79.3	80.1	77.9	78.9	79.2	80.6	77.4
前期比(%)	▲ 6.2	▲ 0.1	0.4	▲ 2.1	5.0	2.2	1.0	▲ 2.7	1.3	0.4	1.8	▲ 4.0
出荷	70.8	71.3	75.1	71.7	77.8	79.2	80.5	78.3	79.7	79.5	80.6	76.8
前期比(%)	▲ 11.1	0.7	5.3	▲ 4.5	8.5	1.8	1.6	▲ 2.7	1.8	▲ 0.3	1.4	▲ 4.7
在庫	83.4	93.4	88.9	96.5	92.5	90.5	86.2	80.1	76.9	82.0	86.4	85.2
前期比(%)	3.0	12.0	▲ 4.8	8.5	▲ 4.1	▲ 2.2	▲ 4.8	▲ 7.1	▲ 4.0	6.6	5.4	▲ 1.4

図31 建設財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ウ 消費財

平成16年の消費財の生産指数（原指数年平均）は、耐久消費財が77.1で前年比▲7.3%、非耐久消費財が92.7で同▲1.3%それぞれ低下し、全体として88.5となり同▲2.7%の低下となった。

出荷指数（原指数年平均）は、耐久消費財が87.5で前年比▲4.9%低下し、非耐久消費財が94.6で同0.1%上昇し、全体として92.5となり同▲1.4%の低下となった。

在庫指数（原指数年平均）は、耐久消費財が85.9で前年比▲1.6%、非耐久消費財が117.4で同▲4.1%それぞれ低下し、全体として104.9となり同▲3.2%の低下となった（表46）。

消費財の季節調整済指数を四半期別にみると、生産指数は、Ⅰ期、Ⅱ期で低下し、Ⅲ期、Ⅳ期で上昇した。出荷指数は、Ⅰ期で上昇した後、Ⅱ期で低下し、Ⅲ期、Ⅳ期で上昇した。在庫指数はⅠ期、Ⅱ期で上昇し、Ⅲ期、Ⅳ期で低下した（表52）。

表52 消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
生産	94.1	93.4	88.9	90.3	94.9	91.2	87.5	91.4	88.1	85.9	88.1	90.8
前期比(%)	▲0.6	▲0.7	▲4.8	1.6	5.1	▲3.9	▲4.1	4.5	▲3.6	▲2.5	2.6	3.1
出荷	96.0	93.2	89.7	92.4	97.1	94.3	91.8	92.8	93.4	90.0	91.7	94.3
前期比(%)	1.9	▲2.9	▲3.8	3.0	5.1	▲2.9	▲2.7	1.1	0.6	▲3.6	1.9	2.8
在庫	109.8	117.0	109.9	101.6	108.5	118.0	107.4	99.4	103.6	106.6	104.7	103.9
前期比(%)	6.1	6.6	▲6.1	▲7.6	6.8	8.8	▲9.0	▲7.4	4.2	2.9	▲1.8	▲0.8

図32 消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

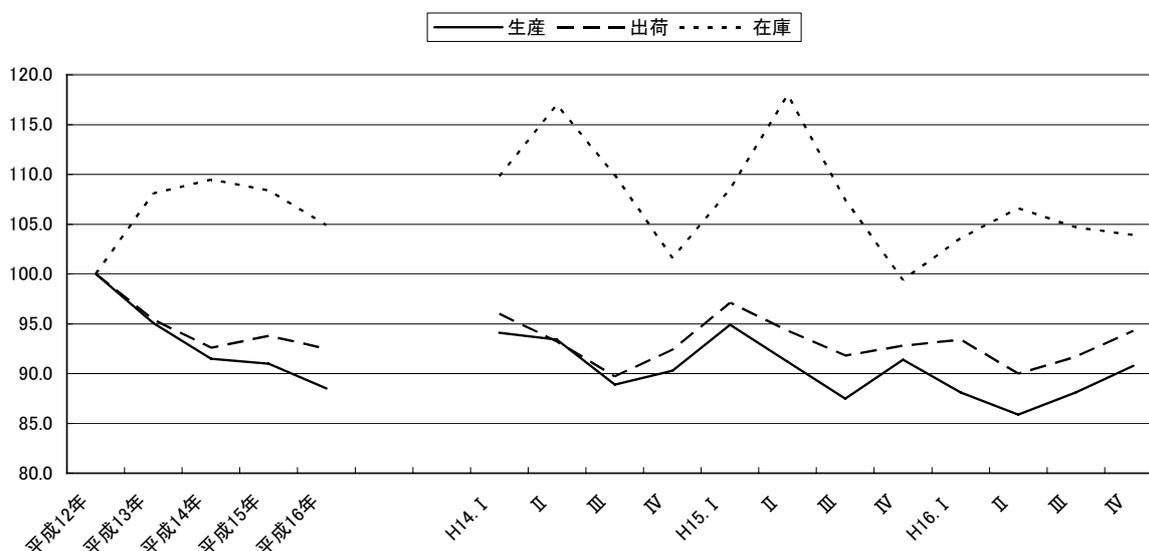


表53 耐久消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
生産	87.8	86.0	77.2	88.7	88.4	87.7	79.2	79.9	79.4	75.4	76.8	76.5
前期比(%)	▲2.7	▲2.1	▲10.2	14.9	▲0.3	▲0.8	▲9.7	0.9	▲0.6	▲5.0	1.9	▲0.4
出荷	91.6	86.2	80.2	96.2	95.1	93.3	92.7	88.9	88.4	84.2	87.1	89.2
前期比(%)	2.3	▲5.9	▲7.0	20.0	▲1.1	▲1.9	▲0.6	▲4.1	▲0.6	▲4.8	3.4	2.4
在庫	104.4	102.1	101.9	89.4	82.8	102.5	90.8	75.7	80.4	84.0	82.5	96.1
前期比(%)	4.5	▲2.2	▲0.2	▲12.3	▲7.4	23.8	▲11.4	▲16.6	6.2	4.5	▲1.8	16.5

図33 耐久消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

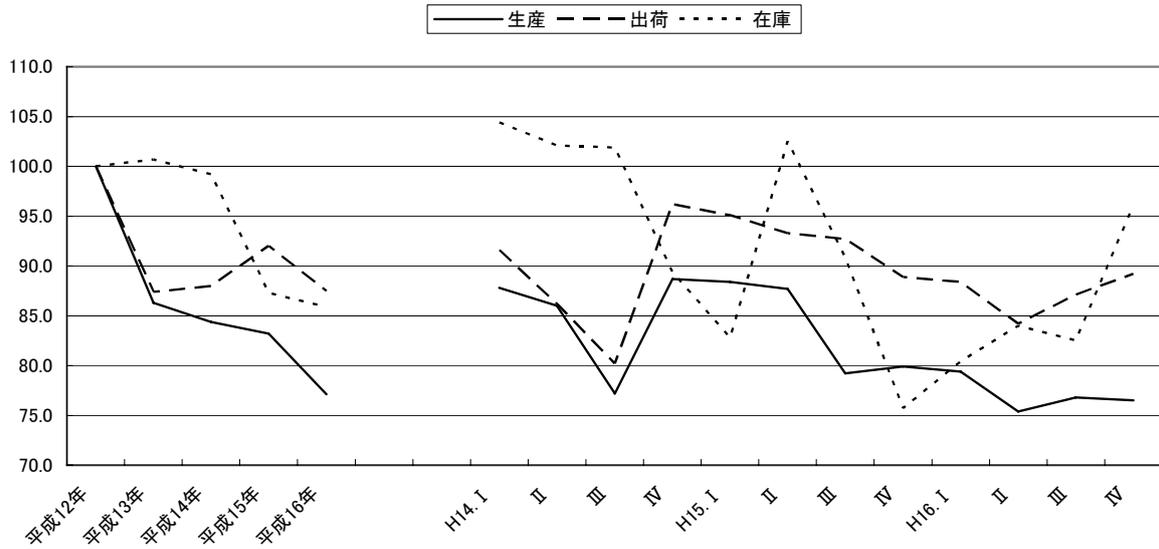
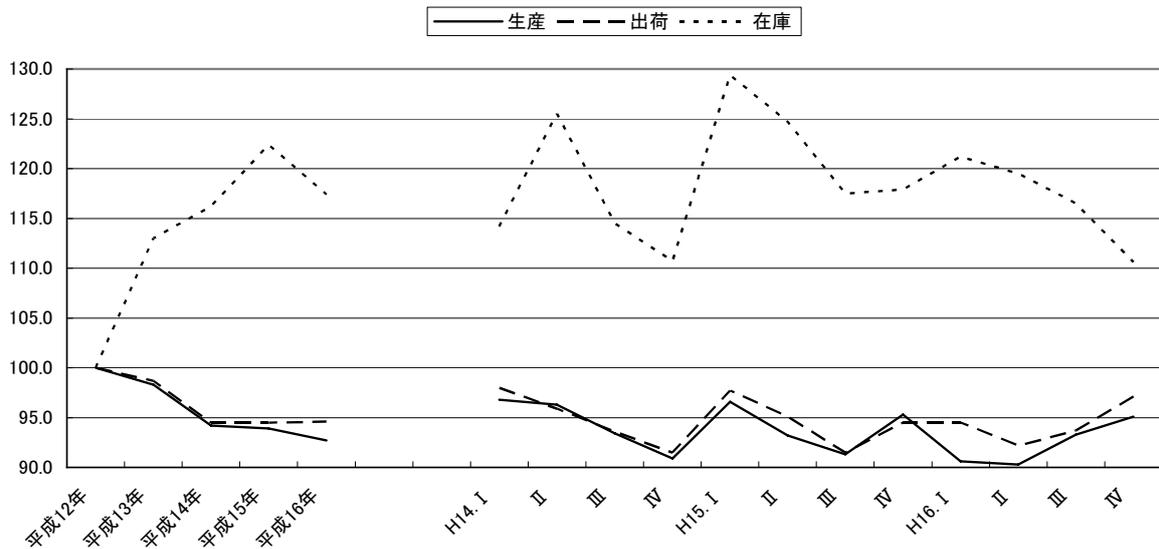


表54 非耐久消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
生産	96.8	96.3	93.4	90.9	96.6	93.2	91.3	95.3	90.6	90.3	93.3	95.1
前期比(%)	0.6	▲ 0.5	▲ 3.0	▲ 2.7	6.3	▲ 3.5	▲ 2.0	4.4	▲ 4.9	▲ 0.3	3.3	1.9
出荷	98.0	95.9	93.6	91.5	97.7	95.1	91.5	94.5	94.5	92.2	93.7	97.1
前期比(%)	1.3	▲ 2.1	▲ 2.4	▲ 2.2	6.8	▲ 2.7	▲ 3.8	3.3	0.0	▲ 2.4	1.6	3.6
在庫	114.2	125.5	114.5	110.7	129.4	124.7	117.5	117.9	121.2	119.5	116.5	110.6
前期比(%)	7.3	9.9	▲ 8.8	▲ 3.3	16.9	▲ 3.6	▲ 5.8	0.3	2.8	▲ 1.4	▲ 2.5	▲ 5.1

図34 非耐久消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



2 電力・ガス事業の推移

平成16年の生産指数（原指数年平均）は、80.1で前年比43.3%上昇と2年ぶりに上昇した（表55）。

品目別にみると、電力は前年比43.4%上昇と2年ぶりに上昇し、ガスは同▲1.7%低下と2年ぶりに低下した。

季節調整済指数を四半期別にみると、Ⅰ期、Ⅱ期で大きく上昇した後、Ⅲ期で低下し、Ⅳ期は横ばいとなった。（表56）。

表55 電力・ガス事業年別生産指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
電力・ガス事業	100.0	96.0	96.4	55.9	80.1
前年比(%)		▲4.0	0.4	▲42.0	43.3
電力	100.0	96.0	96.3	55.8	80.0
前年比(%)		▲4.0	0.3	▲42.1	43.4
ガス	100.0	100.5	99.1	99.6	97.9
前年比(%)		2.4	▲0.5	▲0.5	▲1.7

表56 電力・ガス事業四半期別生産指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成14年				平成15年				平成16年			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
電力・ガス事業	104.6	100.6	97.8	82.1	65.3	42.2	58.5	57.5	75.3	90.3	77.1	77.2
前期比(%)	9.6	▲3.8	▲2.8	▲16.1	▲20.5	▲35.4	38.6	▲1.7	31.0	19.9	▲14.6	0.1
電力	104.6	100.6	97.8	82.0	65.1	42.1	58.4	57.4	75.1	90.3	77.1	77.2
前期比(%)	9.6	▲3.8	▲2.8	▲16.2	▲20.6	▲35.3	38.7	▲1.7	30.8	20.2	▲14.6	0.1
ガス	97.8	97.0	100.6	101.7	101.2	100.5	99.7	96.7	99.4	100.4	98.4	91.9
前期比(%)	▲2.7	▲0.8	3.7	1.1	▲0.5	▲0.7	▲0.8	▲3.0	2.8	1.0	▲2.0	▲6.6

図35 電力・ガス事業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)生産指数の推移(平成12年=100.0)

